

Kaseya 2

Desktop Management

ユーザーガイド

バージョン 7.0

日本語

October 27, 2014

Agreement

The purchase and use of all Software and Services is subject to the Agreement as defined in Kaseya's "Click-Accept" EULATOS as updated from time to time by Kaseya at

http://<u>www.kaseya.com</u>/legal.aspx. If Customer does not agree with the Agreement, please do not install, use or purchase any Software and Services from Kaseya as continued use of the Software or Services indicates Customer's acceptance of the Agreement."

目次

Desktop Policy および Desktop Migration の概要	1
Desktop Policy および Desktop Migration のモジュール要件要件	3
クライアントとログファイルを構成	3
Desktop Policy の構成	3
Desktop Migration の構成	5
[Wake on LAN] > [スケジュール]	6
[Wake on LAN] > [警報]	8
ステータス	10
現在の状態	11
電源	12
電源ポリシー	15
マップドライブ	16
マップドライブポリシー	18
プリンター	19
プリンターポリシー	20
デスクトップ	21
デスクトップの構成	23
デスクトップ設定フィルター	24
光学ドライブ	26
USB ドライブ	26
Windows Defender	27
アクション・センター	27
ポリシー警報	27
移行可能	30
パックアップ	30
ユーザー設定フィルター	32
復元する	34
保存された設定 - 復元	35
移行	37
保存された設定 - 移行	39
管理	40
データ設定	40
移行警報	41
インストール/削除	44
最大ログエージ	46

Desktop Policy および Desktop Migrationの 概要

2 つの異なる製品である **Desktop Policy** および **Desktop Migration** は、VSA 内の同じ **Desktop Management** モジュールにインストールされます。

- Desktop Policy (KDP) これは、プリンターやマップ済みドライブの定義および配置を行う ためのグループベースのポリシー、および電源管理オプションの定義および配置を行うための システム全体のポリシーを含みます。さらに、Desktop Policy を使用することで、デスクトッ プ標準パッケージの定義と配置ができます。デスクトップスタンダードパッケージは、IT スタ ッフおよび MSP に、組織全体で一貫性を維持する便利な方法を提供し、会社の標準の強制を可 能にします。光学ドライブ、USB ドライブ、Windows Defender、およびアクションセンター をリモートから有効/無効にすることもできます。
- Desktop Migration(KDM) ローカルユーザーのアカウント、ユーザー設定、アプリケーション設定、およびシステム設定のバックアップ、復元、および移行を行います。スタッフやユーザーは、システムにあるブラウザのブックマークやカスタムのショートカットを含めて、ユーザー設定、アプリケーション設定、およびシステム設定のカスタマイズに膨大な時間を費やします。OS やコンピュータのハードウェアをアップグレードする際にカスタマイズや設定を保存する場合、エラーが起きやすく、特に複数のマシンを一度に移行する場合は管理が困難です。Desktop Migration の移行では、プロセス全体が自動化され、スタッフやユーザーの貴重な時間を節約できます。

注:「システム要件」『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/7000000/reqs/index.asp#home.htm を見て 』を参照してください。

機能	説明	Desktop Policy で インスト ールされ る	Desktop Migration でインス トールさ れる
移行可能 『30 ページ 』	エンドポイントが Windows 7 または他のオペレーティング システムへアップグレードする際の簡単なコストのまとめ を提供します。	•	•
ステータス 『10 ページ 』	Desktop Policy および Desktop Migration のステータスダッ シュボードを表示します。	۲	۲
現在の状態 『11 ページ 』	KDPM クライアントがインストールされている各マシンに ついて、KDPM の詳細を表示します。	٩	٢
電源 『12 ページ 』	電源ポリシーを作成および管理し、選択したマシンIDに適 用します。	٢	
マップドライブ 『16 ペ ージ 』	マップドライブポリシーを作成および管理し、選択したマ シン ID にー様に適用します。	٢	
プリンター 『19 ページ 』	プリンター接続ポリシーを作成および管理し、選択したマ シン ID にー様に適用します。	٩	
デスクトップ 『21 ペー	選択したマシンIDにデスクトップスタンダードパッケージ	9	

ジ』	をインストールします。		
光学ドライブ 『26 ペー ジ 』	管理マシンの DVD ドライブおよび CD-ROM ドライブを有 効/無効にします。	9	
USB ドライブ 『26 ペー ジ 』	管理マシンの USB ドライブを有効/無効にします。	9	
Windows Defender 『 27 ページ 』	管理マシンの Windows Defender を有効/無効にします。	۹	
アクション・センター 『27 ページ 』	管理マシンのアクションセンターを有効/無効にします。	۲	
スケジュール 『6 ページ 』	オフラインであるマシンの電源をスケジュールします。	۲	
警報 『8ページ 』	[Wake On LAN] > [スケジュール]を使用してスケジュール した Wake On LAN イベントについて、そのイベントの成 功または失敗に対応する警報を作成します。	•	
バックアップ 『30 ペー ジ 』	選択したマシンIDのすべてのローカルユーザーのアカウン トの設定の一度または繰返しのバックアップをスケジュー ルします。		٩
復元する 『34 ページ 』	1 人または複数のローカルユーザーのアカウントを単一の ターゲットマシンIDに復元します。最初に、復元元となる ソースマシンを選択します。		٩
移行 『37 ページ 』	ユーザー設定および1人または複数のローカルユーザーの アカウントの選択したマシンIDへの復元をスケジュールし ます。		٩
管理 『40 ページ 』	Desktop Migration のバックアップに関連するすべてのタス クをマシン ID 別およびバックアップ別にまとめて、一元管 理できる場所を提供します。		٩
インストール/削除 『44 ページ 』	選択したマシンに KDPM クライアントをインストールしま す。	۲	9
デスクトップパッケー ジ 『23 ページ 』	デスクトップパッケージを作成します。	۲	
データ設定 『40 ページ 』	管理される設定ファイルを保存するディレクトリを指定し ます。		٩
ポリシー警報 『27 ペー ジ 』	ポリシーイベントの成功または失敗に応じて警報を作成し ます。	9	
移行警報 『41 ページ 』	移行イベントの成功または失敗に応じて警報を作成します 。		•
最大ログエージ 『46 ペ ージ 』	ログデータを保持する日数を指定します。	٩	9
ログ 『47 ページ 』	選択したマシン ID の KDPM ログデータを表示します。	9	9

Desktop Policy および Desktop Migration のモジュール要件

Kaseya Server

- Desktop Policy 7.0 モジュールおよび Desktop Migration 7.0 モジュールを使用するには、VSA 7.0 が必須です。
- インストールが不可欠です。顧客サポートの要求により使用できるようになります。
- 両方のモジュールは VSA 内の同じデスクトップ管理モジュールにインストールします。

各管理マシンの要件

- 256 MB の RAM
- 30 MBの空きディスクスペースに加えて、バックアップ対象のデータ量に等しい追加空きディ スクスペース
- Microsoft Windows Server 2003、2003 R2、2008、2008 R2、2012、2012 R2
- Microsoft Windows XP SP2、Vista、7、8、8.1

```
注: 概要の「システム要件」 『
http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/7000000/reqs/index.asp#home.htm を見て 』を参照して
ください。
```

クライアントとログファイルを構 成

インストールするものが Desktop Policy と Desktop Migration のいずれか、あるいは両方かに関わ らず、次に示すモジュールのインストールおよび設定のステップが適用されます。

```
    [エージェント]>[資格情報の設定] 『
        http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/7000000/index.asp#352.htm を見て 』を使用して
        、Desktop Policy および Desktop Migration のクライアントに、マシン ID に対応する資格情
        報が設定されている必要があります。一般に、マシンを管理する場合、ドメイン管理者証明書
        を使用します。
```

- [インストール/削除] 『44 ページ 』を使用して、ソースおよびターゲットのマシンに Desktop Policy および Desktop Migration のクライアントをインストールします。
- 3. オプションとして、[**ログの最大保持期間**] 『46 ページ 』を使用して、KDPM のログファイル を保持するデフォルトの最大日数を変更します。

Desktop Policy の構成

Desktop Policy が実行できるタスクは、次の3つの一般的なカテゴリーに分類できます。

 ポリシー - 電源管理、ディレクトリのマッピングやプリンターの特別な ユーザー設定ポリシ ーを定義、適用します。

- デスクトップスタンダード 複数のマシンに適用される標準のユーザー設定を定義、適用します。
- 「Wake On LAN」-マシンの電源の起動をスケジュールし、電源起動の成功または失敗の警報を 作成します。

構成ポリシー

3つの特別な Desktop Policy ポリシーを個別に定義して適用できます。

- 電源管理
 - 1. マシンに電源ポリシーを適用する前に、ステータス 『10 ページ 』ページを使用して、マシンの既存の電源設定を既に定義されている電源ポリシーと比較します。Desktop Policyの電源管理機能の使用を検討している顧客に、このページを表示できます。
 - 2. 電源 『12ページ 』ページを使用して、電源ポリシーを定義して、ターゲットマシンに適用します。電源ポリシーは、グループ ID では定義されません。なぜなら、同じ電源ポリシーは複数の顧客に適応されるからです。
 - 3. ステータス 『10ページ』ページを再チェックして、マシンが新しい電源ポリシーまたは 変更された電源ポリシーに適合しているかを表示します。オプションで、[適合]のドロッ プダウンリストから[指定された電源ポリシー]項目を選択して、マシンに適用している電 源ポリシーに適合していないマシンを特定します。
- マップドライブ
 - 現在のステージ『11ページ』ページを使用して、マシン ID およびユーザー別に、現在のマップドライブを確認します。
 - マップドライブ 『16ページ 』ページを使用して、マップドライブを定義して、ターゲットマシンに適用します。マップドライブは通常は顧客のサイトに固有なので、マップドライブポリシーはグループ ID によって定義されます。
- プリンター
 - 現在のステージ『11ページ』ページを使用して、マシン ID およびユーザー別に、プリン ターを確認します。
 - プリンター 『19ページ』ページを使用して、プリンターポリシーを定義して、ターゲットマシンに適用します。プリンターは通常は顧客のサイトに固有なので、プリンターポリシーはグループ ID によって定義されます。
- 光学ドライブ マシン ID 別に有効/無効にします。
- USB ドライブ マシン ID 別に有効/無効にします。
- Windows Defender マシン ID 別に有効/無効にします。
- アクションセンター マシン ID 別に有効/無効にします。

デスクトップスタンダードパッケージの構成

デスクトップスタンダードパッケージは、通常は同じ会社内にある複数のマシンに渡って統一的に ユーザー設定を適用するために作成されたインストールファイルです。たとえば、会社はその会社 に固有のデスクトップアイコンやそれぞれのユーザーのマシンで常に使用可能であるインターネッ トのブックマークを必要とするかもしれません。

- デスクトップパッケージ 『23ページ 』ページを使用して、デスクトップスタンダードパッケ ージを作成します。通常は、デスクトップ標準パッケージはグループに固有ですが、オプショ ンで<All Groups>のデスクトップ標準パッケージを作成できます。
- 2. **デスクトップ** 『21 ページ 』を使用して、1 台または複数のターゲットマシンにデスクトップ スタンダードパッケージを適用します。

「Wake On LAN」の構成

- [Wake on LAN] > [スケジュール] 『6 ページ 』を使用して、マシンの電源投入をスケジュール します。
- 2. [Wake on LAN] > **[警報]** 『8 ページ 』を使用して、電源投入時の成功または失敗の通知を受信 します。

vPro の構成

[vPro 管理] 『8ページ 』 > [vPro を検出]を使用して、マシンが vPro マシンかどうかを検出します。

注:vPro 対応マシンのバージョンを調べる方法については、 http://communities.intel.com/docs/DOC-2033 を参照してください。

- 2. [vPro] > [vPro を有効にする]を使用して、vPro 対応マシンを有効にします。
- VSA が検出する前に、vPro マシンが有効 (アクティブ) になっている場合、vPro パスワードが 既に存在しています。[vPro] > [vProパスワードの設定]オプションを使って、同じ vPro パスワー ドを入力します。このパスワードを使用することにより、vPro マシンおよび VSA の両方で既知 の vPro パスワードをリセットすることもできます。Desktop Management を使用したことで 初めて vPro マシンが有効になった場合には、一致するパスワードが自動的に設定されます。

注:マシンに割り当てられている vPro パスワードを表示するには、[AMT パスワード]列を[vPro]ページに表示します。

- 4. [vPro 管理] > [**電源管理**]のスケジュールオプションを使用して、電源管理タスクをスケジュール します。
- 5. vPro マシンでローカルにのみ表示される同意コードを入力して、KVMView のリモート vPro セ ッションを開始します。KVMView を vPro リモートコントロール、BIOS ヘブート、および ISO からブートに使用できます。
- 6. [vPro管理] > [vProプロキシの作成]を使用して、ファイアウォールの背後にあるマシンへのアク セスを可能にします。
- vPro プロキシマシンにセキュリティ証明書を構成 『 https://helpdesk.kaseya.com/entries/33171573 を見て 』して、リモート vPro セッションを 開始するために vPro マシンのローカルにのみ表示される同意コードを入力する操作を省略しま す。

Desktop Migration の構成

Desktop Migration は、各ユーザーの**個別の**ユーザー設定およびローカルユーザーのアカウントを バックアップし、それらの復元または移行を行います。

最初は、次の機能を使用して Desktop Migration を構成します。

- 移行可能 『30ページ 』を使用して、マシンの Windows 7 または他のオペレーティングシステムへのアップグレードのコストおよびエンドポイントの準備を確認します。
- 各ユーザーのデータ設定 『40ページ』を保存するデータ場所を定義します。通常は、これは ソースマシンとターゲットマシンの両方がそれぞれの証明書でアクセスできるネットワークディレクトリになります。
- バックアップ『30ページ』を使用して、選択したマシンIDのすべてのローカルユーザーのア カウントの設定の一度または繰返しのバックアップをスケジュールします。

■ 移行イベントの成功または失敗に応じて移行警報 『41 ページ 』を作成します。

次に、以下のどれかを使用して、個別ユーザーの設定を復元または移行します。

- オプションで、復元 『34ページ 』を使用して、1つまたは複数のローカルユーザーのアカウントを単一のターゲットマシンIDに複合するか、または…
- オプションで、移行 『37ページ 』を使用して、1つまたは複数のローカルユーザーのアカウントをソースマシンから複数のターゲットマシンに移行します。オプションで、ターゲットマシンでローカルユーザーのアカウントを名前変更または追加します。

別の方法として、[管理] 『40 ページ 』ページから、Desktop Migration のバックアップ、復元、お よび移行に関連するすべてのタスクを、マシン ID 別およびバックアップ別でまとめて一元管理でき ます。

[Wake on LAN] > [スケジュール]

Desktop Management > [Wake on LAN] > [スケジュール] • このページは**Desktop Policy**がインストールされているときにのみ表示されます。

スケジュールページは、オフラインであるマシンの電源をオンにします。通常は、エネルギーを節約するために夜はマシンをオフにして、メンテナンスを実行するために夜中に電源をオンにします。自動電源オンは、スケジュールされた「Wake on LAN」コマンドで実行します。これは、起動するそれぞれのマシンに対して一意の識別子と特別に暗号化されたメッセージを、業界標準のパケット(マジックパケット)でネットワークに送信する同じLANにアクティブなエージェントを持つことで、これを達成します。次の2つの前提条件があります:

- それぞれのマシンが、次に2つのテクノロジーのどちらを使用して、リモートでの電源オンを サポートしていること。
 - ▶ マシンが、vPro-対応マシンであること。
 - 可能な場合は、PCのマザーボードの BIOSで「Wake on LAN」設定が有効になっていること。この設定によって、たとえマシンの電源がダウンしていても、マシンのネットワークカードへの電源が有効になります。
- 対象となる LAN には、「マジックパケット」を送信するコントローラとして動作する、マシンが 少なくとも1台はオンラインになっていなければなりません。

「Wake on LAN」アクションの詳細は、各マシンのエージェント手順ログで見つかります。[エージェント] > [エージェントログ]を参照してください。

vPro

Wake On LAN については、vPro がマシンを起動する方法をデフォルトで使用します。vPro が有効に なっていない場合、またはマシンが vPro に対応していない場合には、vPro を使用しない方法を使用 してマシンを起動します。vPro の方法を使用する利点は、[vPro]ページからリモートで vPro を有効 にすることができ、vPro が有効になったことをそのページで確認できることです。Wake-on-LAN は BIOS を使用して手動で有効にする必要があり、BIOS を手動でチェックすることによってのみ確認 できます。また、Wake-on-LAN を使用するには、同じサブネット上にターゲットとして別のマシン が必要です。マシンがパブリック IP アドレスをもっているか、同じファイアウォール内の異なるサ ブネットに別のマシンがある場合には、vPro はインターネット経由で動作可能です。Wake-on-LAN 警報は vPro のマシンの起動方法には適用されません。

アクション

このページは以下のアクションを提供します:

- スケジュール クリックすると、[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このウインドウ は、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュ ールします。再発生のタイプ(一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年)が、それぞれの 再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生 の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用で きるわけではありません。次のオプションがあります。
 - スケジュール 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディン グを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画しま す。たとえば、あるタスクの実行時間が午前3:00にスケジュールされ、配布期間が1時間 の場合、タスクが午前3:00~午前4:00のランダムな時刻に実行されるようにスケジュー ルが変更されます。
 - オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の 計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシン がオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
 - オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。
 - 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- すぐに起動 マシンをすぐに起動します。
- キャンセル これらのスケジュールオプションをキャンセルします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリ ンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- ◎ エージェントが延期された

次回の起動

このマシンの起動が計画されている次回の時間です。

前回の起動

前回、このマシンに WOL メッセージが送信されたときです。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

[Wake on LAN] > [警報]

Desktop Management > [Wake on LAN] > [警報]

• このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[**警報**]ページでは、[Wake on LAN] > [スケジュール]『6 ページ』を使用してスケジュールした Wake On LAN イベントについて、その成功または失敗に応じた警報を作成します。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープ により異なります。 このページにマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使 用してマシンに Desktop Policy クライアントがインストールされている必要があります。

注:Wake-on-LAN 警報は vPro のマシンの起動方法 『6ページ』には適用されません。

警報を作成するには

- これらのチェックボックスのいずれかをチェックすると、警報条件の発生時に、対応するアクションが実行されます。
 - アラームを作成
 - ▶ チケットを作成
 - スクリプトを実行
 - ▶ Eメール受信者
- 2. 追加の E メールパラメータを設定します。
- 3. 以下のうちのどれかを選択します:
 - ▶ Wake on LAN 成功
 - ▶ Wake on LAN 失敗
- 4. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
- 5. 設定をクリックして、選択したマシンIDに警報設定を割り当てます。

警報設定をコピーするには

- 1. [すべての設定のコピー元]を選択します。
- 2. [*(クリックして選択)*]をクリックして、警報設定のコピー元にする Desktop Policy の管理マシン を選択します。
- 3. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
- 4. 設定をクリックして、選択したマシン ID に警報設定を割り当てます。

アラームの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとアラームが作成されます。アラームは、[モニター] > [ダ ッシュボードリスト]、[モニター] > [アラームサマリ]、および[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [ログ] > [アラームログ]に表示されます。 チケットの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとチケットが作成されます。

スクリプトを実行する

チェックした場合、警報条件が発生するとエージェント手順が実行されます。実行するエージェント手順を選ぶには、エージェント手順の選択リンクをクリックしなければなりません。このマシン Dリンクをクリックすることで、マシン ID の特定レンジでエージェント手順を作動させることができます。指定するこれらのマシン ID を、警報条件が発生したマシン ID と一致させる必要はありません。

Eメールを送信する。

チェックした場合、警報条件が発生すると、Eメールが指定Eメールアドレスに送信されます。

- 現在のリストに追加ラジオボタンオプションを選択し、適用をクリックすると、警報設定が適用され、以前に指定されたEメールアドレスはそのままで、指定されたEメールアドレスが加えられます。
- リストの置き換えラジオボタンオプションを選択し、適用をクリックすると、警報設定が適用 され、指定されたEメールアドレスが、現存のEメールアドレスと置き換わります。
- 取り除くをクリックすると、どの警報パラメータも修正することなく全Eメールアドレスが取り除かれます。
- Eメールは、警報で指定されたEメールアドレスに Kaseya Server から直接送信されます。[発信元アドレス]を設定するには、[システム] > [アウトバウンドEメール]を使用します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- 2 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

警報名

各マシン ID にあり得る警報をリストアップします。

応答

各マシン ID の各警報に指定された ATSE 反応コード:

- A = アラームを作成
- T = チケットを作成
- S = 起動 スクリプト
- E = Eメール受信者

起動するスクリプト

この警報条件が発生した場合に実行するエージェント手順。

スクリプト実行をオンにする

この警報条件が発生した場合にエージェント手順を実行するマシン ID。

Eメール宛先

通知が送信されるEメールアドレスのコンマ区切りのリスト。

ステータス

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [ステータス]

- 【レポート】 > [Desktop Management 『50ページ』]で類似の情報が提供されます。
- ステータスページは、以下のダッシュボードを提供します:

Desktop Policy のダッシュボード

- 電源適合
- ポリシー配置外観

Desktop Migration のダッシュボード

- プロセス設定バックアップで
- バックアップステータス外観の設定
- マシン別バックアップステータスの設定

電源適合

電源適合セクションは、**適合条件**ドロップダウンリストを使用して選択した**電源** 『12 ページ 』ポ リシーへのマシンの適合を表示します。マシンのカウントは、マシン ID/グループID フィルター、お よびマシンに KDPM クライアントがインストールされているかどうかに基づきます。

5 つのゲージが、適合、非適合、およびサポート対象外のマシンの数を表示します。

- **モニターをオフにする** 選択した電源ポリシーモニター設定に一致するマシン。
- ハードディスクをオフにする 選択した電源ポリシーハードディスク設定に一致するマシン。
- システムスタンバイ 選択した電源ポリシーシステムスタンバイ設定に一致するマシン。
- システムスリープ 選択した電源ポリシーシステムスリープ設定に一致するマシン。
- 電源適合 この5番目のトップゲージは、4つの下位のゲージのロールアップを表しています。これは、4つの電源設定のすべてに適合しているマシンの合計数です。

これらのゲージは、次の場合に更新されます:

- [インストール/削除 『44ページ 』]を使用して、KDPM クライアントがマシンにインストールされた場合。インストールの時点でのマシンの電源設定を既に定義されている電源ポリシーと比較して、どのマシンが選択した電源ポリシーに適合していないかを決定できます。
- 電源ポリシーはマシンに適用されます。

■ 最新の監査は、通常は毎日、マシンで実行されます。

指定された電源ポリシー

[適合]ドロップダウンリストから[指定された電源ポリシー]項目を選択して、どのマシンが適合して いるか/適合していないか/指定された電源ポリシーをサポートしていないかを確認できます。これは 、マシンに適用される電源ポリシーに関わらず、非適合であるマシンを決定するのを助けます。

<N> 台のマシンが<power setting> に適合しない

5 つのゲージのどれかの下にあるリンクをクリックして、非適合マシン ID のリストを表示します。

<N>*台のマシンが未割り当てまたはモニターされていません*

この*トップ*ゲージの下のリンクをクリックして、未割り当てまたはモニターされていないマシン ID のリストを表示します。

<N> 台のマシンが<power setting>をサポートしない

*4 つの下位の*ゲージのどれかの下のリンクをクリックして、この特別な電源設定をサポートしていな いマシン ID のリストを表示します。

注:一部のマシンでは、1つ以上の電源ポリシー設定がサポートされないことがあります。代表例としては、バーチャルマシンとターミナルサーバーです。 これらのマシンに適用する場合は、電源ポリシー設定をスキップします。

ポリシー配置外観

ポリシーのそれぞれのタイプに対して1つ、全部で3つのパイチャートを表示します:電源、マップ ドライブ、およびプリンターです。それぞれのパイチャートは、成功した、エラーありで成功した 、失敗したポリシー配置のパーセンテージを表示し、スケジュールされないままになります。パイ チャートのスライス、またはパイチャートのラベルのどれかクリックして、そのスライスに属する 個々のマシンのリストを表示します。

プロセス設定バックアップで

バックアップがいつ開始したか、および使用されるフィルターの設定を表示します。

設定バックアップ外観

スケジュールされた、成功した、失敗した、およびキャンセルされたバックアップを示すパイチャートを表示します。パイチャートのスライス、またはパイチャートのラベルのどれかクリックして、そのスライスに属する個々のマシンのリストを表示します。

マシン別バックアップステータスの設定

それぞれのマシンのスケジュールされた、成功した、失敗した、またはキャンセルされたバックア ップのステータスを表示します。

現在の状態

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [現在のステータス]

[現在のステータス]ページには、Desktop Policy および Desktop Migration クライアントがインス

します。

- それぞれのユーザーログインで、そのユーザーに対してユーザー、ユーザーグループ、マップ ドライブおよび プリンターが定義されます。
- それぞれのマシンには、その共有名に対して*共有名*および*ローカルファイルパス*があります。

電源

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [電源]

• このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

電源ポリシーページは、電源ポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に適用します。電源 ポリシーは、マシンの電源管理オプションをどのように構成するかを決定します。電源管理オプシ ョンは以下に対して設定されます:

- 表示画面
- ハードドライブ
- 時間別のシャットダウン、スリープおよびスタンバイ
- バッテリー低下警告

顧客の電力消費を大幅に削減し、自動的にすべての管理されるマシンに電源ポリシーを適用してラ ップトップのバッテリーの寿命を延ばすことが可能です。ログインしている、いないにかかわらず 、同じポリシーがマシン上の各ユーザーに適用されます。ユーザーが次回ログオンしたときに、変 更が有効になります。電源ポリシーは、グループ ID では定義されません。なぜなら、同じ電源ポリ シーは複数の顧客に適応されるからです。このページにマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44 ページ』を使用してマシンに Desktop Policy クライアントがインストールされている必要が あります。

注:一部のマシンでは、1つ以上の電源ポリシー設定がサポートされないことがあります。代表例としては、バーチャルマシンとターミナルサーバーです。これらのマシンに適用する場合は、電源ポリシー設定をスキップします。**電源ステータス『10**ページ』ページは、どのマシンが特定の電源ポリシー設定をサポートしていないかを特定します。

事前に定義された電源ポリシー

次の事前定義された電源ポリシーは KDPM によって提供されており、変更することはできません。 Windows XPの事前定義の電源スキームに基づいています。ユーザー定義電源ポリシーと同様に割り 当てることができます。事前定義の電源ポリシーの選択は、XP マシンのプロセッサーのパフォーマ ンスに影響することに注意してください。

	プロセッサーのノ [、] コントロールポリ	パフォーマンスの シー
電源ポリシー	AC 電源	DC 電源
常時オン	なし	なし
バッテリー寿命の最大化	適用できる	下げる
ホーム/オフィスのデスクトッ プ	なし	適用できる
ポータブル/ラップトップ	適用できる	適用できる

	プロセッサーのノ^ コントロールポリ	パフォーマンスの ↓シー
電源ポリシー	AC 電源	DC 電源
プレゼンテーション	適用できる	下げる

プロセッサーのパフォーマンスのコントロールポリシー

マイクロプロセッサー採用の異なるパフォーマンスの状態:

- プロセッサーの使用率が高い場合、高電圧/高周波数の使用状態。
- バッテリーの寿命を守る、低電圧/低周波数の状態。

こうしたマイクロプロセッサーのパフォーマンスの状態をサポートするために、Windows XPはプロ セッサーのパフォーマンスのコントロールポリシーを使用します。*電源ポリシーは、ターゲットマ シンのプロセッサーのコントロールポリシーを決定します。*

ポリシー	説明
なし	高パフォーマンス状態。
適用でき る	需要に従って選んだパフォーマンス状態。
下げる	最低のパフォーマンス状態 + バッテリーの放電に伴う追加直線的パ フォーマンス低下。

アクション

このページは以下のアクションを提供します:

- スケジュール クリックすると、[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ(一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年)が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
 - 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前3:00にスケジュールされ、配布期間が1時間の場合、タスクが午前3:00~午前4:00のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
 - オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の 計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシン がオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
 - オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。
 - 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- 今すぐ適用 選択したポリシーを選択したマシン ID に適用します。
- キャンセル 選択したマシン ID のスケジュールオプションをキャンセルします。

 編集 - 既存の電源ポリシー 『15ページ』を追加、編集または削除します。ポリシーを追加、 編集するとき、ポリシーの名前を変えることができます。作成したポリシーは、すべてのグル ープに適用されます。新しいポリシーを作成するには、ポリシーのドロップダウンリストから [<新規電源ポリシーの作成>]を選択し、[編集]をクリックします。他のユーザーまたはユーザー 役割で作成した電源ポリシーを共有…できます。組み込みの電源ポリシーは変更できず、すで にすべてのユーザーで共有されています。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- 🥝 エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- ◎ エージェントが延期された

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリ ンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

電源ポリシー

このマシン ID に指定したポリシー。

最後の適用時間

このマシン ID にこのポリシーが適用された最後の時です。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク√が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされ ている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間 後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の適用時間

このポリシーが適用を計画されている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは<mark>赤の文字に黄色</mark> <mark>のマーカーで表示されます</mark>。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

Desktop Management > [ポリシー] > [電源] > [編集]
このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

電源ポリシーダイアログボックスは、電源ポリシーのオプションを指定します。**電源** 『12ページ 』 ページを使用して、管理されるマシンに電源ポリシーを割り当てます。

ポリシー名

名前を入力するか、この電源ポリシーの名前を変更します。

電源スキーマ

コンピュータが**接続されているか、**または**バッテリーで動作中である**かによって、以下のアクションを実行する前に、どの程度の時間コンピュータが待機するかを入力します:

- モニターをオフにする 通常は、電源を保護するために、短い時間でもモニターをオフにします。
- ハードディスクをオフにする 通常は、電源を保護するために、短い時間でもハードディスク をオフにします。
- システムスタンバイ スタンバイがオンである間は、コンピュータ全体が低電力状態に切り替わり、モニターやハードディスクなどのデバイスがオフになって、コンピュータの使用電力が低下します。再びコンピュータを使用する際は、素早くスタンバイ状態を抜けて、デスクトップは正確に元の状態に戻ります。ポータブルコンピュータでバッテリーの電力を保護する場合、スタンバイは特に便利です。スタンバイではデスクトップの状態はディスクに保存されないので、スタンバイ中に停電があると、保存してない情報は失われます。
- システムスリープ スリープの場合、メモリの内容はすべてディスクに保存され、モニターや ハードディスクはオフになり、コンピュータもオフになります。コンピュータを再起動すると 、デスクトップは正確に元の状態に戻ります。スタンバイの場合に比べて、スリープではコン ピュータが元に戻るまでに時間がかかります。

低バッテリーアラーム

以下を指定します:

- **電源レベルが<N>%になると、低バッテリーアラームを有効にする**-チェックした場合、電源 レベルが指定したパーセンテージに達した場合に、アラームをトリガーします。
- サウンドアラーム これをチェックすると、アラームがあると音が出ます。
- メッセージ表示 これをチェックすると、アラームがあるとメッセージが表示されます。
- アラームがオフになると、コンピュータは チェックした場合、アラームがトリガーされたときにコンピュータの状態が[スタンバイ]、[休止]、または[シャットダウン]になります。
- プログラムが反応しなくなると強制アクション チェックすると、ハングしたり壊れたプログ ラムが、アラームに反応して、システムに影響をあたえることがなくなります。

きわめて重要なバッテリーアラーム

以下を指定します:

- **電源レベルが**<N>%になると、重大のバッテリーアラームを有効にする チェックした場合、
 電源レベルが指定したパーセンテージに達した場合に、アラームをトリガーします。通常は、
 このきわめて重要なバッテリーアラームの設定は、低バッテリーアラムの設定より小さいパー
 センテージになります。
- サウンドアラーム これをチェックすると、アラームがあると音が出ます。

雷源

- メッセージ表示 これをチェックすると、アラームがあるとメッセージが表示されます。
- アラームがオフになると、コンピュータは チェックした場合、アラームがトリガーされたときにコンピュータの状態が[スタンバイ]、[休止]、または[シャットダウン]になります。
- プログラムが反応しなくなると強制アクション チェックすると、ハングしたり壊れたプログ ラムが、アラームに反応して、システムに影響をあたえることがなくなります。

詳細

以下を指定します:

- コンピュータがスタンバイから復帰する際に、パスワードを要求する
- スリープ有効 チェックすると、電源オプションとしてスリープが有効になります。

電源ボタンの動作(Vista 移行の場合)

- ラップトップコンピュータの蓋を閉じると [何も実行しない]、[スタンバイ]、または[休止]
- コンピュータの電源ボタンを押すと [何も実行しない]、[スタンバイ]、[休止]、または[シャットダウン]
- コンピュータのスリープボタンを押すと [何も実行しない]、[スタンバイ]、[休止]、または[シャットダウン]

マップドライブ

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [マップドライブ]

• このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

マップドライブページは、マップドライブポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に一様 に適用します。それぞれの管理されるマシンには、適用されるポリシーに従って、マップドライブ の適切なセットが自動的に割り当てられます。ログインしている、いないにかかわらず、同じポリ シーがマシン上の各ユーザーに適用されます。ユーザーが次回ログオンしたときに、変更が有効に なります。組織全体にマップドライブのセットを一様に適用すると、どこにリソースが存在するか に関するユーザーの混乱が減少し、より生産的なタスクに時間を回せます。また、こうしたドライ ブのマッピングを手動で実現するための IT サポートコールも削減できます。

注: ターゲットマシンの資格情報をもつユーザーに、マップするネットワークディレクトリへのアクセス権 限があることを確認します。通常、KDPM を使用してマシンを管理する場合、ドメイン管理者の資格情報を 使用します。[エージェント]>[資格情報の設定]を参照してください。

このページにマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Policy クライアントがインストールされている必要があります。

アクション

このページは以下のアクションを提供します:

- スケジュール クリックすると、[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ(一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年)が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
 - 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、

あるタスクの実行時間が午前3:00 にスケジュールされ、配布期間が1時間の場合、タスク が午前3:00~午前4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されま す。

- オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
- オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。
- 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- 今すぐ適用 選択したポリシーを選択したマシン ID に適用します。
- キャンセル 選択したマシン ID のスケジュールオプションをキャンセルします。
- 編集 既存のマップドライブポリシー 『18ページ』を追加、編集または削除します。ポリシーを追加、編集するとき、ポリシーの名前を変えることができます。特定のグループに対してポリシーを指定しなければなりません。新しいポリシーを作成するには、ポリシーのドロップダウンリストから[<新規電源ポリシーの作成>]を選択し、[編集]をクリックします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。

2 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません

- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- ◎ エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

マップドライブポリシー

このマシンIDに指定したポリシー。

最後の適用時間

このマシン ID にこのポリシーが適用された最後の時です。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✓が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされ ている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間 後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の適用時間

このポリシーが適用を計画されている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは<mark>赤の文字に黄色</mark> のマーカーで表示されます。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

マップドライブポリシー

Desktop Management > [ポリシー] > [マップドライブ] > [編集]
このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

マップドライブポリシーダイアログボックスは、マップドライブのセットを指定します。マップド ライブ 『16ページ 』ページを使用して、管理されるマシンにマップドライブポリシーを割り当て ます。

ポリシー名

名前を入力するか、このマップドライブポリシーの名前を変更します。

(グループ)

このマップドライブポリシーを適用するグループ ID を入力します。マシングループは通常、顧客の タイプ、または顧客の場所でまとめます。したがって、マップドライブは通常それぞれのマシング ループで一意になります。

すべてのドライブ・マッピングを置換する

チェックした場合、マシンに既に存在しているマップドライブをすべて削除し、割り当て済みのマ ップドライブポリシーで定義されたマップドライブを追加します。チェックしない場合、マシンに 既に存在するマップドライブに、割り当て済みのマップドライブポリシーで定義されたマップドラ イブが追加されます。

ドライブのマッピング

マップドライブをこのポリシーに追加します。

- 1. マップドライブパス UNC 記述を使用して、共有ネットワークフォルダのパスを入力します。
- 2. マップドライブ マップドライブの文字を選択します。
- 3. 追加 追加ボタンをクリックします。

このシーケンスを繰り返して、複数のマップドライブをこのポリシーに追加します。

- 編集 編集をクリックして、マップドライブのパスとドライブの文字を変更します。更新をクリックして変更を保存します。
- 削除 削除をクリックして、このポリシーからマップドライブを削除します。

プリンター

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [プリンター] • このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

プリンターページは、プリンター接続ポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に一様に適用します。それぞれの管理されるマシンには、適用されるポリシーに従って、プリンター接続の適切なセットが自動的に割り当てられます。ログインしている、いないにかかわらず、同じポリシーがマシン上の各ユーザーに適用されます。ユーザーが次回ログオンしたときに、変更が有効になります。プリンター接続を組織全体に適用して、ユーザーにより生産的なタスクのための時間を与えます。また、こうしたプリンター接続を手動で実現するための IT サポートコールも削減できます。このページにマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Policy クライアントがインストールされている必要があります。

注: ターゲットマシンの資格情報をもつユーザーに、指定したプリンターへのアクセス権限があることを確認します。一般に、マシンを管理する場合、ドメイン管理者証明書を使用します。[エージェント]>[資格情報の設定]を参照してください。

プリンターネットワーク位置の決定

プリンターポリシーを編集する場合、\\Server\Shareのフォーマットで、ネットワークプリンターの UNC 位置を指定する必要があります。このプリンターネットワーク位置を決定するには:

- 1. **プリンターとファックス**ウィンドウにリストされるプリンターのプロパティを表示します。
- 2. **ポート**タブを選択します。
- 3. プリンターネットワーク位置は、隣のチェックボックスがチェックされているポート列に表示 されます。

アクション

このページは以下のアクションを提供します:

- スケジュール クリックすると、[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ(一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年)が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
 - 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前3:00にスケジュールされ、配布期間が1時間の場合、タスクが午前3:00~午前4:00のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
 - オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の 計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシン がオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
 - オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。

プリンター

- 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- 今すぐ適用 選択したポリシーを選択したマシン ID に適用します。
- キャンセル 選択したマシンIDのスケジュールオプションをキャンセルします。
- 編集 既存のプリンターポリシー 『20ページ』を追加、編集または削除します。ポリシーを 追加、編集するとき、ポリシーの名前を変えることができます。特定のグループに対してポリ シーを指定しなければなりません。新しいポリシーを作成するには、ポリシーのドロップダウ ンリストから[<新規電源ポリシーの作成>]を選択し、[編集]をクリックします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

プリンターポリシー

このマシン ID に指定したポリシー。

最後の適用時間

このマシン ID にこのポリシーが適用された最後の時です。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✓が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされ ている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間 後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の適用時間

このポリシーが適用を計画されている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは<mark>赤の文字に黄色</mark> <mark>のマーカーで表示されます</mark>。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

プリンターポリシー

Desktop Management > [ポリシー] > [プリンターポリシー] > [編集] このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

プリンターポリシーダイアログボックスは、プリンターネットワーク位置のセットを指定します。 プリンター 『19ページ 』ページを使用して、管理されるマシンにプリンターポリシーを割り当て ます。

ポリシー名

名前を入力するか、このプリンターポリシーの名前を変更します。

(グループ)

このプリンターポリシーを適用するグループ ID を入力します。マシングループは通常、顧客のタイ プ、または顧客の場所でまとめます。したがって、プリンターは通常それぞれのマシングループで 一意になります。

すべてのプリンタを置換する

チェックした場合、マシンに既に存在しているプリンターをすべて削除し、割り当て済みのマップ ドライブポリシーで定義されたプリンターを追加します。チェックしない場合、マシンに既に存在 するプリンターに、割り当て済みのマップドライブポリシーで定義されたプリンターが追加されま す。

プリンター

プリンターをこのポリシーに追加します。

1. プリンターネットワーク位置 - ネットワークプリンターのポートを入力します。

注: プリンターのネットワークポートの候補リストについては、ユーザーのコンピュータ に関するプリンター定義の[プロパティ] > [ポート]タブ > [ポート]列を参照してください。

- デフォルトプリンターにする チェックすると、このプリンターネットワーク位置がデフォルトプリンターとして設定されます。
- 3. 追加 追加ボタンをクリックします。

このシーケンスを繰り返して、複数のプリンターネットワーク位置をこのポリシーに追加します。

- 編集 編集をクリックして、プリンターネットワーク位置を変更します。更新をクリックして 変更を保存します。
- 削除 削除をクリックして、このポリシーからプリンターネットワーク位置を削除します。

デスクトップ

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [デスクトップ]

• このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[デスクトップ]ページでは、選択したマシンIDにデスクトップ標準パッケージをインストールしま す。デスクトップスタンダードパッケージは、通常は同じ会社内にある複数のマシンに渡って統一 的にユーザー設定を適用するために作成されたインストールファイルです。たとえば、会社はその 会社に固有のデスクトップアイコンやそれぞれのユーザーのマシンで常に使用可能であるインター ネットのブックマークを必要とするかもしれません。 このページにマシンを表示するには、[イン ストール/削除] 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Policy クライアントがインストールさ れている必要があります。適用後、ユーザーが次回ログオンしたときに変更が有効になります。 デスクトップ標準パッケージの作成と編集を行うには、Desktop Management > [デスクトップパッ ケージ] 『23 ページ 』を使用します。ソースマシンの単ーユーザーを選択して設定を抽出します。[デスクトップ]ページを使用して、デスクトップパッケージをターゲットマシンの*すべてのユーザー* に適用します。復元 『34 ページ 』とは異なり、適用するデスクトップパッケージ内の設定を選択す ることはできません。デスクトップパッケージのすべての設定が適用されます。 デスクトップ

アクション

このページは以下のアクションを提供します:

- スケジュール クリックすると、[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ(一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年)が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
 - 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前3:00にスケジュールされ、配布期間が1時間の場合、タスクが午前3:00~午前4:00のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
 - オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
 - オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。
- 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内で タスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定す ると、スケジューラにより無視されます。
- 今すぐ適用 選択したパッケージを選択したマシン ID に適用します。
- キャンセル 選択したマシン ID のスケジュールオプションをキャンセルします。
- デスクトップスタンダードパッケージの作成/変更 選択したマシン ID に適用するデスクトップスタンダードパッケージを選択します。

注: デスクトップ標準パッケージの作成と編集を行うには、Desktop Management > [デスクトップパ ッケージ] 『23 ページ 』を使用します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。

エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません

- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- G エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動

◎ エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

デスクトップ標準パッケージ

このマシン ID に適用されるユーザー設定のデスクトップスタンダードパッケージ。

最後の適用時間

このマシン ID にこのパッケージが適用された最後の時です。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✓が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされ ている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間 後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の適用時間

このパッケージの適用がスケジュールされている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは<mark>赤の</mark> <mark>文字に黄色のマーカーで表示されます</mark>。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

デスクトップの構成

Desktop Management > [デスクトップポリシー**] > [**デスクトップパッケージ**]** • このページは**Desktop Policy**がインストールされているときにのみ表示されます。

デスクトップパッケージページは、デスクトップスタンダードパッケージを作成します。デスクト ップ標準パッケージを配置するには、[デスクトップ] 『21ページ』ページを使用します。デスクト ップスタンダードパッケージは、通常は同じ会社内にある複数のマシンに渡って統一的にユーザー 設定を適用するために作成されたインストールファイルです。たとえば、会社はその会社に固有の デスクトップアイコンやそれぞれのユーザーのマシンで常に使用可能であるインターネットのブッ クマークを必要とするかもしれません。 このページにマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44ページ』を使用してマシンに Desktop Policy クライアントがインストールされている必要が あります。

ソースマシンの単ーユーザーを選択して設定を抽出します。[**デスクトップ** 『21 ページ 』]ページを 使用して、デスクトップパッケージをターゲットマシンの*すべてのユーザー*に適用します。**復元** 『 34 ページ 』とは異なり、適用するデスクトップパッケージ内の設定を選択することはできません。 デスクトップパッケージのすべての設定が適用されます。

デスクトップ標準パッケージの作成または変更を行うには、次の手順に従います。

- 1. **デスクトップパッケージ** 中央パネルで既存のパッケージを選択するか、[新規]でパッケージ の作成を指定します。
- 2. デスクトップパッケージ名 新しいパッケージの名前を入力します。別の名前を入力して、既 存のパッケージの名前を変更することもできます。

- マシングループ このパッケージを適用するマシングループを選択します。[<すべてのグループ>]を指定するか、特定のグループを指定できます。グループが別の顧客を表すこともあるので、パッケージはマシングループに対して一意になります。ユーザーがアクセスできるグループのみが表示されます。
- 4. デスクトップ設定フィルター
 - ▶ [<新規デスクトップ設定フィルターの作成>]を選択するか、既存のデスクトップ設定フィ ルター 『24ページ』と[編集]を選択して、パッケージに含める設定を指定します。
 - デスクトップ設定フィルターを編集する場合、ステップ5でソースマシンで使用するローカルユーザーアカウントを指定します。
 -) 削除をクリックして、既存のデスクトップ設定フィルターを削除します。作成したデスクトップ設定フィルターを他のユーザーまたはユーザー役割と共有できます。

注:ステップ4の**デスクトップ設定フィルター**は、**ステップ6**で設定を抽出して作成するデ スクトップパッケージにバインドされます。フィルターおよびパッケージを初めて作成し た後は、フィルターを変更して使用することで、作成した元のパッケージに影響を与える ことなく、別のパッケージを作成できます。別のフィルター設定を使用して再作成するこ とで、既存のパッケージのフィルター設定を変更できます。

- 5. ソースマシン ステップ4に含まれる各デスクトップ設定の詳細は、ソースマシンのローカル ユーザーアカウントから収集されます。これらの詳細をコピーするソースマシンを選択します。
- 抽出 このボタンをクリックしてパッケージを作成します。[デスクトップパッケージのステ ータス]に、パッケージが最後に変更された日付スタンプが表示されます。パッケージが更新される場合は、[保留中]が表示されます。
- アクション
 - 新規 デスクトップパッケージを作成します。
 - 保存 選択したデスクトップパッケージの変更を保存します。
 - **削除** 選択したデスクトップパッケージを削除します。
 - 共有 選択したデスクトップ標準パッケージを個別のユーザーまたはユーザー役割と共有します。

デスクトップ設定フィルター

Desktop Management > [設定] > [パッケージの定義] > [編集]
このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

デスクトップ設定フィルターダイアログボックスは、システム設定、アプリケーション設定および ローカルユーザーアカウントのセットを指定します。デスクトップ設定フィルターは、ソースマシ ンに適用されて、 **デスクトップ**『23ページ』を使用する、**デスクトップスタンダードパッケージ** を作成します。同じデスクトップ設定フィルターを複数のソースマシンと組み合わせて、複数のデ スクトップスタンダードパッケージを作成できます。

注: ターゲットマシンが特定の設定を使用していない場合、復元中または移行中には設定が無視されます。

フィルタ名

名前を入力するか、このデスクトップ設定フィルターの名前を変更します。

共有...

共有…をクリックして、このデスクトップ設定フィルターを他のユーザーまたはユーザー役割と共有 します。

ユーザー

ソースマシンのユーザーを指定 - ドメインユーザーの場合、認証された DOMAIN\UserName フォ ーマットを使用します。

設定は必ず特定のマシンの特定のユーザーによって定義されます。**デスクトップ設定フィルター**で 選択するシステム設定、アプリケーション設定、およびファイル―ローカルユーザーアカウントに 対して指定する―は、デスクトップスタンダードパッケージの一部として保存されます。

注:指定するローカルユーザーアカウントは、指定するソースマシンに存在している必要があります。ソー スマシンはデスクトップパッケージ *『23 ページ 』の親ウィンドウのステップ 5 で選択されます。*

システム設定

パッケージに含めたい、それぞれのシステム設定をチェックします。

アプリケーション設定

パッケージに含めたい、それぞれのアプリケーションをチェックします。

ファイル

ファイル、ディレクトリまたはファイルのタイプをファイル拡張子によって含めたり、除外します。除外が優先します。例:.doc .ppt .xls

% 文字を最初の文字として入力すると、ファイルやディレクトリの指定で使用できる変数のリスト が表示されます。変数には以下があります:

%AppData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%ApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%CommonApplicationData%	マシン毎	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ
%CommonDesktop%	マシン毎	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ
%CommonDocuments%	マシン毎	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ
%CommonProgramFiles%	マシン毎	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ
%CommonStartMenu%	マシン毎	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクト リ
%ComputerName%	マシン毎	コンピュータの名前です。ドメインで、認証された名前 。
%Desktop%	ユーザー毎	ユーザ専用デスクトップディレクトリ
%Favorites%	ユーザー毎	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存され ます。
%History%	ユーザー毎	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴を検索する 場所
%LocalApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設 定はローミングプロファイルでは移動しません。
%MyMusic%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ミュージック}のディレクトリ
%MyPictures%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ

%MyDocuments%	ユーザー毎	ユーザーの「マイ ドキュメント」ディレクトリ
%Personal%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ
%Profiles%	マシン毎	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所
%Programs%	ユーザー毎	ユーザーのスタートメニューのプログラム
%ProgramFiles%	マシン毎	システムがプログラムを保存する場所
%QuickLaunch%	ユーザー毎	ユーザーのクイック起動のプログラム
%System%	マシン毎	システムファイルがインストールされる場所
%UserName%	ユーザー毎	ユーザーのログイン名 (フルネームではない)
%UserProfile%	ユーザー毎	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ
		0
%WinDir%	マシン毎	Windows がインストールされる場所

光学ドライブ

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [光学ドライブ] • このページは**Desktop Policy**がインストールされているときにのみ表示されます。

[光学ドライブ]ページでは、管理マシンの DVD ドライブおよび CD-ROM ドライブを有効/無効にしま す。マシンが次回リブートしたときに、変更した設定が有効になります。[次の実行]列の値は、コマ ンドが保留中であることを示します。

アクション

- 有効にする 選択したマシンのすべての光学ドライブを有効にします。
- 無効にする 選択したマシンのすべての光学ドライブを無効にします。

USB ドライブ

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [USBドライブ]

• このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[USB ドライブ]ページでは、管理マシンの USB フラッシュドライブを有効/無効にします。マシンが 次回リブートしたときに、変更した設定が有効になります。[次の実行]列の値は、コマンドが保留中 であることを示します。

注:マシンの管理者は USB ドライブアクセスを再度有効にすることができます。管理者が新しい USB デバイスを挿入した場合、Windows は USB デバイスを自動的に再度有効にします。管理者以外のアカウントを 使用して USB デバイスを挿入した場合、有効にはなりません。

アクション

- 有効にする 選択したマシンのすべての USB ドライブを有効にします。
- 無効にする 選択したマシンのすべての USB ドライブを無効にします。

Windows Defender

Desktop Management > [デスクトップポリシー**] > [Windows Defender]** • このページは**Desktop Policy**がインストールされているときにのみ表示されます。

[Windows Defender]ページでは、管理マシンで Windows Defender を有効/無効にします。マシンが次回リブートしたときに、変更した設定が有効になります。[次の実行]列の値は、コマンドが保留中であることを示します。

アクション

- 有効にする 選択したマシンの Windows Defender を有効にします。
- 無効にする 選択したマシンの Windows Defender を無効にします。

アクション・センター

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [アクションセンター] • このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[アクションセンター]ページでは、管理マシンで Microsoft のアクションセンターを有効/無効にしま す。マシンが次回リブートしたときに、変更した設定が有効になります。[次の実行]列の値は、コマ ンドが保留中であることを示します。

注: Vista 以前は、アクションセンターのことを Windows セキュリティセンターと呼んでいました。

アクション

- **有効にする** 選択したマシンでアクションセンターを有効にします。
- 無効にする 選択したマシンでアクションセンターを無効にします。

ポリシー警報

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [ポリシー警報]

• このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[ポリシー警報]ページでは、次のKDPMのページを使用してスケジュールされたポリシーイベントについて、その成功または失敗に応じた警報を作成します。

- 電源 『12ページ』
- マップドライブ 『16ページ 』
- **プリンター** 『19ページ 』
- デスクトップ 『21ページ』

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープ により異なります。 このページにマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使 用してマシンに Desktop Policy クライアントがインストールされている必要があります。

警報を作成するには

- これらのチェックボックスのいずれかをチェックすると、警報条件の発生時に、対応するアクションが実行されます。
 - ▶ アラームを作成
 - ▶ チケットを作成
 - ▶ スクリプトを実行
 - ▶ Eメール受信者
- 2. 追加の E メールパラメータを設定します。
- 3. 以下のうちのどれかを選択します:
 - ▶ 電源ポリシーの適用が成功
 - ▶ 電源ポリシーの適用が失敗
 - ▶ マップドライブの適用が成功
 - ▶ マップドライブの適用が失敗
 - ▶ プリンターポリシーの適用が成功
 - > プリンターポリシーの適用が失敗
 - ▶ デスクトップポリシーの適用が成功
 - ▶ デスクトップポリシーの適用が失敗
- 4. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
- 5. 設定をクリックして、選択したマシンIDに警報設定を割り当てます。

警報設定をコピーするには

- 1. [すべての設定のコピー元]を選択します。
- 2. [(クリックして選択)]をクリックして、警報設定のコピー元にする Desktop Policy の管理マシンを選択します。
- 3. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
- 4. 設定をクリックして、選択したマシンIDに警報設定を割り当てます。

アラームの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとアラームが作成されます。アラームは、[モニター] > [ダ ッシュボードリスト]、[モニター] > [アラームサマリ]、および[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [ログ] > [アラームログ]に表示されます。

チケットの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとチケットが作成されます。

スクリプトを実行する

チェックした場合、警報条件が発生するとエージェント手順が実行されます。実行するエージェント手順を選ぶには、エージェント手順の選択リンクをクリックしなければなりません。このマシン ID リンクをクリックすることで、マシン ID の特定レンジでエージェント手順を作動させることができます。指定するこれらのマシン ID を、警報条件が発生したマシン ID と一致させる必要はありません。

Eメールを送信する。

チェックした場合、警報条件が発生すると、Eメールが指定Eメールアドレスに送信されます。

- 現在のリストに追加ラジオボタンオプションを選択し、適用をクリックすると、警報設定が適用され、以前に指定されたEメールアドレスはそのままで、指定されたEメールアドレスが加えられます。
- リストの置き換えラジオボタンオプションを選択し、適用をクリックすると、警報設定が適用 され、指定されたEメールアドレスが、現存のEメールアドレスと置き換わります。
- 取り除くをクリックすると、どの警報パラメータも修正することなく全Eメールアドレスが取り除かれます。
- Eメールは、警報で指定されたEメールアドレスに Kaseya Server から直接送信されます。[発信元アドレス]を設定するには、[システム] > [アウトバウンドEメール]を使用します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- 0 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- ◎ エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

警報名

各マシン ID にあり得る警報をリストアップします。

応答

各マシン ID の各警報に指定された ATSE 反応コード:

- A = アラームを作成
- T = **チ**ケットを作成
- S = 起動 スクリプト
- E = Eメール受信者

起動するスクリプト

この警報条件が発生したときに、実行するスクリプトです。

スクリプト実行をオンにする

この警報条件が発生したときに、スクリプトを実行するマシンIDです。

Eメール宛先

通知が送信されるEメールアドレスのコンマ区切りのリスト。

移行可能

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [移行可能]

移行可能ページは、エンドポイントが Windows 7 または他のオペレーティングシステムへアップグ レードする際の簡単なコストのまとめを提供します。監査情報を使用すると、以下に関する最小シ ステム要件について視覚的な比較が可能になります:

- CPU
- ハードディスク
- RAM

インタラクティブなコスト作業シートによって、以下を入力できます:

- ハードウェア要件
- ハードウェアコスト
- 移行要件
- 経理

注:表示されているマシンIDのリストは、マシンID/グループIDのフィルター、および[システム]>[ユー ザーセキュリティ]>[スコープ] により表示する権限をユーザーがもつマシングループにより異なります。

注:[移行可能]ページには、エージェントがインストールされているサーバーが表示されません。

バックアップ

Desktop Management > [デスクトップ移行] **> [**バックアップ] • このページは**Desktop Migration**がインストールされているときにのみ表示されます。

バックアップページは、選択したマシン ID のすべてのローカルユーザーのアカウントの設定の一度 または繰返しのバックアップをスケジュールします。Desktop Migration の設定およびローカルユー ザーアカウントを同じマシンに復元するには、Desktop Management > **[復元]** 『34 ページ 』を使用 します。別のマシンに移行するには、Desktop Management > **[移行]** 『37 ページ 』を使用します。 このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Migration クライアントがインストールされている必要があります。

注:バックアップは当初ローカルマシンで準備されるので、バックアップするデータ量と等しい空きスペースがマシンに必要です。

アクション

このページは以下のアクションを提供します:

スケジュール - クリックすると、[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ(一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年)が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始

日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。

- 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前3:00にスケジュールされ、配布期間が1時間の場合、タスクが午前3:00~午前4:00のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
- オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の 計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシン がオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
- オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。
- 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- すぐにバックアップ 選択したユーザー設定フィルターを使用して、選択したマシンIDのユー ザー設定およびローカルユーザーのアカウントをすぐにバックアップします。
- キャンセル 選択したマシン ID からスケジュールを削除します。
- 編集/削除 既存のユーザー設定フィルター 『32ページ』を追加、編集または削除します。ユーザー設定フィルターを追加または編集する際に、ユーザー設定フィルターの名前を変更できます。ユーザー設定フィルターを個別のユーザーまたはユーザー役割と共有できます。新しいユーザー設定を作成するには、ドロップダウンリストから[<新規ユーザー設定フィルターの作成>]を選択して、[編集]をクリックします。他のユーザーまたはユーザー役割で作成したユーザー設定フィルターを共有…できます。

注: 次の3つの事前定義設定フィルターがすぐに使えます:[フル]、[最小]、および[通常]。これらの 事前定義のフィルターは変更できません。これらの事前定義されているフィルターの設定を表示する には、フィルターを選択して[**編集**]ボタンをクリックします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- ◎ エージェントがオンライン
- 0 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

バックアップ

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

バックアップの最大数

このマシン ID に対して保存されているバックアップの最大数。データ設定 『40 ページ 』を使用して、最大で 99 までのバックアップを指定できます。

最後のバックアップ

このマシン ID に対して作成された最後のバックアップのステータス。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✓が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされ ている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間 後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次のフィルター

次のバックアップで使用するフィルター。

次のバックアップ

次回、このマシン ID がそのユーザー設定とローカルユーザーアカウントのバックアップを行う予定 。日付/時間期限切れスタンプは<mark>赤の文字に黄色のマーカーで表示されます</mark>。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

ユーザー設定フィルター

Desktop Management > [ファイルと設定] > [バックアップ] > [編集]

• このページは**Desktop Migration**がインストールされているときにのみ表示されます。

ユーザー設定フィルターダイアログボックスは、システム設定とアプリケーション設定のセットを 指定します。ユーザー設定フィルターは、管理されるマシンに適用され、そのマシンのすべてのロ ーカルユーザーアカウントに対するすべての選択された設定のバックアップを作成します。管理さ れるマシンのユーザー設定のバックアップは、バックアップ 『30 ページ 』ページを使用してスケ ジュールされます。

注: 次の3つの事前定義設定フィルターがすぐに使えます:[フル]、[最小]、および[通常]。これらの事前 定義のフィルターは変更できません。

注:復元の場合、復元するローカルユーザーアカウントおよび設定を選択するオプションがあります。ター ゲットマシンが特定の設定を使用していなければ、復元中は設定が無視されます。

注: ローカルユーザーのアカウントは、domain\user として保存されます。ローカルユーザーのアカウ ントを新しいマシンに移行する場合、ローカルユーザーのアカウントを新しいドメインに再マップすること ができます。 フィルタ名

名前を入力するか、このユーザー設定フィルターの名前を変更します。

共有...

共有…をクリックして、このユーザー設定を他のユーザーまたはユーザー役割と共有します。

システム設定

バックアップに含めたい、それぞれのシステム設定をチェックします。

アプリケーション設定

バックアップに含めたい、それぞれのアプリケーション設定をチェックします。

ファイル

ファイル、ディレクトリまたはファイルのタイプをファイル拡張子によって含めたり、除外します。除外が優先します。例: .doc .ppt .xls

% 文字を最初の文字として入力すると、ファイルやディレクトリの指定で使用できる変数のリスト が表示されます。変数には以下があります:

%AppData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%ApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%CommonApplicationData%	マシン毎	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ
%CommonDesktop%	マシン毎	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ
%CommonDocuments%	マシン毎	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ
%CommonProgramFiles%	マシン毎	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ
%CommonStartMenu%	マシン毎	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクト リ
%ComputerName%	マシン毎	コンピュータの名前です。ドメインで、認証された名前 。
%Desktop%	ユーザー毎	ユーザ専用デスクトップディレクトリ
%Favorites%	ユーザー毎	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存され ます。
%History%	ユーザー毎	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴を検索する 場所
%LocalApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設 定はローミングプロファイルでは移動しません。
%MyMusic%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ミュージック}のディレクトリ
%MyPictures%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ
%MyDocuments%	ユーザー毎	ユーザーの「マイ ドキュメント」ディレクトリ
%Personal%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ
%Profiles%	マシン毎	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所
%Programs%	ユーザー毎	ユーザーのスタートメニューのプログラム
%ProgramFiles%	マシン毎	システムがプログラムを保存する場所
%QuickLaunch%	ユーザー毎	ユーザーのクイック起動のプログラム
%System%	マシン毎	システムファイルがインストールされる場所

%UserName%	ユーザー毎	ユーザーのログイン名 (フルネームではない)
%UserProfile%	ユーザー毎	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ
		0
%WinDir%	マシン毎	Windows がインストールされる場所

復元する

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [復元] • このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

復元ページは、ユーザー設定の単一のマシン ID への復元を2つのステップでスケジュールします。

- 1. 最初に、使用するソースマシンのバックアップを選択します。
- 2.2番目のページが表示され、復元のスケジュールが可能になり、復元に含めるローカルユーザ ーアカウントおよび保存された設定 『35ページ』を選択します。

これらのページで表示するマシン ID に対して:

- ソースマシンとターゲットマシンの両方で、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使用して Desktop Migration クライアントがインストールされている必要があります。
- Desktop Migration のソースマシンには、[バックアップ] 『30ページ』を使用して設定やロー カルユーザーのアカウント情報が保存されている必要があります。

2番目のページのアクション

- スケジュール このボタンをクリックすると、VSA 全体でタスクをスケジュールするために使用する[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このタスクを一度計画する以下のオプション含まれています:
 - 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前3:00にスケジュールされ、配布期間が1時間の場合、タスクが午前3:00~午前4:00のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
 - オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の 計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシン がオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
 - オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。
- 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内で タスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定す ると、スケジューラにより無視されます。
- すぐに復元- 選択したマシン ID をすぐに復元します。
- キャンセル 選択したマシン ID からスケジュール済みの復元を削除します。
- 別のソースマシンを選択 復元元となるソースマシンを変更します。
- 適用する設定の編集 ローカルユーザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定および復元するファイルに対して保存された設定 『35ページ』を編集します。これらの変更は現在の復元にのみ適用され、ソースのバックアップファイルには適用されません。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動
 きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

ターゲット Machine ID.Group ID

ユーザー設定とローカルユーザーアカウントを復元する、ターゲット machine ID.group ID。別のソ ースマシンを選択のリンクをクリックして、別の復元元となる machine ID.group ID を選択します。

ソースマシン

ユーザー設定を復元しているソースマシン ID。

ソースユーザー設定パッケージ

このマシン ID の復元で使用しているユーザー設定。適用する設定の編集をクリックして、復元して いるローカルユーザーアカウント、システム設定および安全設定を変更します。これらの変更は現 在の復元にのみ適用され、ソースのバックアップファイルには適用されません。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✓が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされ ている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間 後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の復元時間

このテンプレートの適用が計画されている次の時間です。 日付/時間期限切れスタンプは<mark>赤の文字に</mark> <mark>黄色のマーカーで表示されます</mark>。

保存された設定 - 復元

Desktop Management > [ファイルと設定] **> [**復元] **> [**ソース設定] **> [**編集] • このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

保存された設定ダイアログボックスは、ソース設定バックアップで保存されていた、ローカルユー ザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定、ファイルのセットを表示します。このダ イアログボックスによって、ローカルユーザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定 、および復元しているフィルターを変更できます。これらの変更は現在の復元にのみ適用され、ソ ース設定のバックアップには適用されません。デフォルトでは、選択したマシンは保存された設定 を作成するために使用したマシンと同じですが、別のマシンを選択することも可能です。

ユーザー

保存されたすべてのユーザーの設定を復元する - これらのローカルユーザーアカウントに対するす べてのローカルユーザーアカウントおよびすべての選択した設定はターゲットマシンで復元されま す。

以下のユーザーの設定を復元する-復元するローカルユーザーアカウントを選択します。すべての *選択した*ローカルユーザーアカウントおよびこれらのローカルユーザーアカウントに対するすべて の選択した設定はターゲットマシンで復元されます。

システム設定

ターゲットマシンで復元する、それぞれのシステム設定をチェックします。

アプリケーション設定

ターゲットマシンで復元する、それぞれのアプリケーション設定をチェックします。

ファイル

ファイル、ディレクトリまたはファイルのタイプをファイル拡張子によって含めたり、除外します 。除外が優先します。例: .doc .ppt .xls

% 文字を最初の文字として入力すると、ファイルやディレクトリの指定で使用できる変数のリスト が表示されます。変数には以下があります:

%AppData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%ApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%CommonApplicationData%	マシン毎	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ
%CommonDesktop%	マシン毎	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ
%CommonDocuments%	マシン毎	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ
%CommonProgramFiles%	マシン毎	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ
%CommonStartMenu%	マシン毎	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクト リ
%ComputerName%	マシン毎	コンピュータの名前です。ドメインで、認証された名前 。
%Desktop%	ユーザー毎	ユーザ専用デスクトップディレクトリ
%Favorites%	ユーザー毎	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存され ます。
%History%	ユーザー毎	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴を検索する 場所
%LocalApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設 定はローミングプロファイルでは移動しません。
%MyMusic%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ミュージック}のディレクトリ
%MyPictures%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ
%MyDocuments%	ユーザー毎	ユーザーの「マイ ドキュメント」ディレクトリ
%Personal%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ
%Profiles%	マシン毎	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所
%Programs%	ユーザー毎	ユーザーのスタートメニューのプログラム
%ProgramFiles%	マシン毎	システムがプログラムを保存する場所

%QuickLaunch%	ユーザー毎	ユーザーのクイック起動のプログラム
%System%	マシン毎	システムファイルがインストールされる場所
%UserName%	ユーザー毎	ユーザーのログイン名 (フルネームではない)
%UserProfile%	ユーザー毎	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ 。
°. Min Dino		
SWIIIDII S	マシン毎	Windows かインストールされる場所

移行

Desktop Management > [デスクトップ移行] **> [**移行] • このページは**Desktop Migration**がインストールされているときにのみ表示されます。

[移行]ページでは、ユーザー設定の1台以上のマシンIDへの移行をスケジュールします。これらのペ ージで表示するマシンIDに対して:

- ソースマシンとターゲットマシンの両方で、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使用して Desktop Migration クライアントがインストールされている必要があります。
- Desktop Migration のソースマシンには、[バックアップ] 『30ページ』を使用して設定やローカルユーザーのアカウント情報が保存されている必要があります。

構成

- 1. それぞれのマシン ID に対して、移行するソースマシンをソースマシン列から選択します。
- 2. ソース設定列から、復元するバックアップを選択します。
- 3. オプションで、ソース設定列の編集ボタンをクリックして、ローカルユーザーアカウントおよび保存された設定 『39ページ』を選択して移行に含めます。これらの変更は現在の移行にのみ適用され、ソースバックアップファイルには適用されません。デフォルトでは、移行ですべてのローカルユーザーアカウントが選択されます。移行先ユーザーを追加することもできます。この機能を使用して、移行時に既存のローカルユーザーアカウントの名前を変更します。新しいユーザーを指定した後、既存のローカルユーザーアカウントに対して新しいユーザーを移行先ユーザーとして選択します。
- 4. 移行するマシン ID を選択します。
- スケジュールまたはすぐに移行ボタンをクリックして、移行をスケジュールします。

アクション

このページは以下のアクションを提供します:

- スケジュール このボタンをクリックすると、VSA 全体でタスクをスケジュールするために使用する[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このタスクを一度計画する以下のオプション含まれています:
 - 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前3:00にスケジュールされ、配布期間が1時間の場合、タスクが午前3:00~午前4:00のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。

- オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の 計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシン がオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
- オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。
- 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- すぐに移行-選択したマシン ID をすぐに移行します。
- キャンセル 選択したマシン ID からスケジュール済みの移行を削除します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✓が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされ ている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間 後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の復元時間

このテンプレートの適用が計画されている次の時間です。 日付/時間期限切れスタンプは<mark>赤の文字に</mark> <mark>黄色のマーカーで表示されます</mark>。

保存された設定 - 移行

Desktop Management > [ファイルと設定] > [移行] > [ソース設定] > [編集] このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

保存された設定ダイアログボックスは、ソース設定バックアップで保存されていた、ローカルユー ザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定、ファイルのセットを表示します。このダ イアログボックスによって、ローカルユーザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定 、および移行しているフィルターを変更できます。これらの変更は現在の移行にのみ適用され、ソ ース設定のバックアップには適用されません。

ターゲットマシンはソースマシンとは別のマシンと想定されますが、**移行**を使用して同じマシンに 設定を復元できます。

ユーザー

ソースユーザー/移行先ユーザー - デフォルトでは、移行ですべてのローカルユーザーアカウントが 選択されます。移行したいすべてのローカルユーザーアカウントをチェックします。オプションで 、ターゲットマシンのそれぞれのローカルユーザーアカウントの名前を変更します。これらのロー カルユーザーアカウントのすべての選択した設定が、ターゲットマシンで復元されます。

移行先ユーザーの追加 - ターゲットマシンでローカルユーザーアカウントを追加します。ユーザー 名とパスワードを入力して、パスワードを確認します。これらの追加のローカルユーザーアカウン トのすべての選択した設定が、ターゲットマシンで作成されます。

システム設定

ターゲットマシンで復元する、それぞれのシステム設定をチェックします。

アプリケーション設定

ターゲットマシンで復元する、それぞれのアプリケーション設定をチェックします。

ファイル

ファイル、ディレクトリまたはファイルのタイプをファイル拡張子によって含めたり、除外します 。除外が優先します。例: .doc .ppt .xls

% 文字を最初の文字として入力すると、ファイルやディレクトリの指定で使用できる変数のリスト が表示されます。変数には以下があります:

%AppData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%ApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%CommonApplicationData%	マシン毎	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ
%CommonDesktop%	マシン毎	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ
%CommonDocuments%	マシン毎	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ
%CommonProgramFiles%	マシン毎	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ
%CommonStartMenu%	マシン毎	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクト リ
%ComputerName%	マシン毎	コンピュータの名前です。ドメインで、認証された名前 。
%Desktop%	ユーザー毎	ユーザ専用デスクトップディレクトリ
%Favorites%	ユーザー毎	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存され ます。

%History%	ユーザー毎	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴を検索する 場所
%LocalApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設 定はローミングプロファイルでは移動しません。
%MyMusic%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ミュージック}のディレクトリ
%MyPictures%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ
%MyDocuments%	ユーザー毎	ユーザーの「マイ ドキュメント」ディレクトリ
%Personal%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ
%Profiles%	マシン毎	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所
%Programs%	ユーザー毎	ユーザーのスタートメニューのプログラム
%ProgramFiles%	マシン毎	システムがプログラムを保存する場所
%QuickLaunch%	ユーザー毎	ユーザーのクイック起動のプログラム
%System%	マシン毎	システムファイルがインストールされる場所
%UserName%	ユーザー毎	ユーザーのログイン名 (フルネームではない)
%UserProfile%	ユーザー毎	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ
		٥
%WinDir%	マシン毎	Windows がインストールされる場所



Desktop Management > [デスクトップ移行] > [管理]

• このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

[管理]ページでは、Desktop Migration のバックアップ、復元、および移行に関連するすべてのタスクを、マシン ID 別およびバックアップ別でまとめて一元管理できます。

- バックアップの内容を閲覧します。
- このバックアップのログを表示します。
- バックアップの名前を変更します。
- バックアップを削除します。このバックアップがロックされている場合は無効です。
- マシンをこのバックアップに復元します。
- このバックアップを新しいマシンに移行します。
- 自動的に削除されないように、このバックアップを**ロック**します。

データ設定

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [データ設定]

• このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

データ設定ページは、マシン ID が設定のバックアップを保存するために使用するディレクトリおよ び保存可能な多数の設定のバックアップを指定します。バックアップ『30ページ』、復元『34 ページ』および移行 『37ページ』を使用して、*個別の*ユーザー設定にだけ適用します。ポリシー およびデスクトップ標準ユーザー設定は、Kaseya Server に保存されます。このページにマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Migration クライアントがインストールされている必要があります。

マップされたドライブ文字はサポートされません。パスは、完全な UNC パスでなければなりません 。たとえば\\machinename\shareのように、エージェントマシンがアクセスする共有への UNC パスを指定するときには、[エージェント] > [資格情報の設定]でそのエージェントマシンに指定する 資格情報を使用しての読み取り/書き込みアクセスを、共有の権限で確実に許可してください。

場所を設定

設定をクリックして、設定のバックアップが保存されるパスを指定します。

場所をクリア

クリアをクリックして、設定のバックアップが保存されるパスを削除します。

設定ファイルのパス

設定のバックアップが保存されるパスを入力します。

自動更新

このチェックボックスを選択すると、ページング部分が5秒毎に更新されます。

<N>個のバックアップを保存/最大を設定

マシン毎に保持できるバックアップの最大数を指定します。1 つまたは複数のマシン ID を選択しま す。[**<N>個のバックアップを保存**]編集ボックスに数値を入力して、[**最大を設定**]ボタンををクリック します。最大で 99 までのバックアップを指定できます。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

管理される設定のパス

マシンIDに割り当てられる設定のバックアップのパスを表示します。

空きスペース

マシンIDのバックアップの場所として使用可能な空きスペースを表示します。「?」が表示されたら、 、チェックボタンをクリックして、十分な空きスペースが存在するか決定します。

移行警報

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [移行警報]

• このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

[移行警報]ページでは、次の KDPM ページを使用してスケジュールされたバックアップ、復元、およ

び移行の各イベントの成功または失敗に応じた警報を作成します。

- バックアップ 『30ページ』
- **復元する** 『34 ページ 』
- 移行 『37 ページ 』

Desktop Migration の管理マシンの[**データ設定**] 『40 ページ 』パスの空きスペースが指定した値未 満になった場合も、警報が作成されます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープ により異なります。 このページにマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使 用してマシンに Desktop Migration クライアントがインストールされている必要があります。

警報を作成するには

- これらのチェックボックスのいずれかをチェックすると、警報条件の発生時に、対応するアクションが実行されます。
 - ▶ アラームを作成
 - ▶ チケットを作成
 - ▶ スクリプトを実行
 - ▶ Eメール受信者
- 2. 追加の E メールパラメータを設定します。
- 3. 以下のうちのどれかを選択します:
 - ▶ バックアップ成功
 - バックアップ失敗
 - ▶ 管理される設定パスの空きスペースが X MB 未満
 - ▶ 復元成功
 - ▶ 復元失敗
 - ▶ 移行成功
 - ▶ 移行失敗
 - ▶ バックアップ削除
 - ▶ バックアップロック
 - ▶ バックアップロック解除
- 4. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
- 5. 設定をクリックして、選択したマシンIDに警報設定を割り当てます。

警報設定をコピーするには

- 1. [すべての設定のコピー元]を選択します。
- 2. [(クリックして選択)]をクリックして、警報設定のコピー元にする Desktop Migration の管理マシンを選択します。
- 3. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
- 4. 設定をクリックして、選択したマシンIDに警報設定を割り当てます。

アラームの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとアラームが作成されます。アラームは、[モニター] > [ダ ッシュボードリスト]、[モニター] > [アラームサマリ]、および[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [ログ] > [アラームログ]に表示されます。 チケットの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとチケットが作成されます。

スクリプトを実行する

チェックした場合、警報条件が発生するとエージェント手順が実行されます。実行するエージェント手順を選ぶには、エージェント手順の選択リンクをクリックしなければなりません。このマシン Dリンクをクリックすることで、マシン ID の特定レンジでエージェント手順を作動させることができます。指定するこれらのマシン ID を、警報条件が発生したマシン ID と一致させる必要はありません。

Eメールを送信する。

チェックした場合、警報条件が発生すると、Eメールが指定Eメールアドレスに送信されます。

- 現在のリストに追加ラジオボタンオプションを選択し、適用をクリックすると、警報設定が適用され、以前に指定されたEメールアドレスはそのままで、指定されたEメールアドレスが加えられます。
- リストの置き換えラジオボタンオプションを選択し、適用をクリックすると、警報設定が適用 され、指定されたEメールアドレスが、現存のEメールアドレスと置き換わります。
- 取り除くをクリックすると、どの警報パラメータも修正することなく全Eメールアドレスが取り除かれます。
- Eメールは、警報で指定されたEメールアドレスに Kaseya Server から直接送信されます。[発信元アドレス]を設定するには、[システム] > [アウトバウンドEメール]を使用します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリ ンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- 0
 - ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
 - エージェントがオンライン
 - ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
 - エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません
 - エージェントが現在オフライン
 - エージェントが今までチェックインしたことがない
 - ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
 - C エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

警報名

各マシン ID にあり得る警報をリストアップします。

応答

各マシン ID の各警報に指定された ATSE 反応コード:

- A = アラームを作成
- T = **チ**ケットを作成
- S = 起動 スクリプト
- E = Eメール受信者

起動するスクリプト

この警報条件が発生したときに、実行するスクリプトです。

スクリプト実行をオンにする

この警報条件が発生したときに、スクリプトを実行するマシン ID です。

Eメール宛先

通知が送信されるEメールアドレスのコンマ区切りのリスト。

インストール/削除

Desktop Management > [共有KDP] & [KDMの設定] > [インストール/削除]

[インストール/削除]ページでは、選択したマシンで Desktop Policy および Desktop Migration のク ライアントソフトウェアのインストール、アンインストール、および確認を行います。クライアン トおよび関連サポートファイルは通常、C:\Program Files\Kaseya\<AgentGUID>\User State Management にインストールされます。

注: [エージェント]>[資格情報の設定] 『

http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/7000000/index.asp#352.htm を見て 』を使用して、 **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントソフトウェアに、マシン **ID** に対応する資格情報 が設定されている必要があります。一般に、マシンを管理する場合、ドメイン管理者証明書を使用します。

ライセンシング

ページの上部に、**Desktop Policy** および **Desktop Migration** の使用中および利用可能のライセンス 数が表示されます。ライセンスを管理するには、[システム] > **[ライセンスマネージャ]** 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/7000000/index.asp#2924.htm を見て 』を使用します。

アクション

このページは以下のアクションを提供します:

Desktop Policy - チェックした場合、このクライアントがインストール、アンインストールまたは 確認用に選択されます。

Desktop Migration - チェックした場合、このクライアントがインストール、アンインストールまた は確認用に選択されます。

- スケジュール このボタンをクリックすると、VSA 全体でタスクをスケジュールするために使用する[スケジューラ]ウインドウが表示されます。このタスクを一度計画する以下のオプション含まれています:
 - 配布ウインドウ ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、

あるタスクの実行時間が午前3:00 にスケジュールされ、配布期間が1時間の場合、タスク が午前3:00~午前4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されま す。

- オフラインなら省く これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
- オンラインなら電源起動 Windowsのみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの 電源をオンにします。同じLAN上で、Wake-On-LANまたはvProと、他の運営しているシ ステムが必要です。
- 以下の時間範囲を除外する 配布期間にのみ適用されます。チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- すぐにインストール 選択したマシン ID に Desktop Policy および Desktop Migration のクラ イアントをインストールします。
- インストールをキャンセル-選択したマシン ID で保留されているインストールまたはアンイン ストールをキャンセルします。
- すぐにアンインストール 選択したマシン ID から Desktop Policy および Desktop Migration のクライアントをアンインストールします。
- すぐに確認する 選択したマシン ID に Desktop Policy および Desktop Migration のクライア ントが正しくインストールされていることを確認します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリ ンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- 0
 - オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
 - エージェントがオンライン
 - ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。

エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません

- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- ◎ エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

ポリシー

チェックした場合、**Desktop Policy** クライアントがこのマシン ID にインストールされます。

移行

チェックした場合、Desktop Migration クライアントがこのマシン ID にインストールされます。

最新<version>/バージョン

*見出し*列は、使用可能なクライアントソフトウェアの最新バージョンを表示します。 列の*セル*には、このマシンIDにインストールされている Desktop Policy および Desktop Migration のクライアントソフトウェアのバージョンが表示されます。クライアントソフトウェアをこのマシ ンIDにインストールするようにスケジュールされている場合は、[インストール保留中]が表示され ます。

検証済み

マシン ID で Desktop Policy および Desktop Migration のクライアントソフトウェアのインストー ルが確認済みである場合、タイムスタンプが表示されます。

最大ログエージ

Desktop Management > [共有KDP] & [KDMの設定] > [ログの最大保持期間]

[ログの最大保持期間]ページでは、Desktop Policy および Desktop Migration の管理マシンのログ データを保持する日数を指定します。指定した最大値より古いエントリーは自動的に削除されます。

Desktop Policy または **Desktop Migration** の操作を実行するたびに、各マシンのログが作成されます。ログには、実行するタスクの日付と時間、結果、および説明を含みます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルターにより異なります。このページ にマシンを表示するには、[インストール/削除] 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Policy および Desktop Migration のクライアントがインストールされている必要があります。

設定

設定 をクリックして、選択したマシン ID のログ日の最大数を指定します。

<N>日

バックアップのためのログ日の最大数を入力します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。すべて選択解除のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- ◎ オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません

- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユ ーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによっ て異なります。

最大エージ

各マシン ID に割り当てられたログ日の最大数

ログ

Desktop Management > [共有KDP] & [KDMの設定] > [ログ]

[ログ]ページには、選択したマシンIDの Desktop Policy および Desktop Migration のログデータが 表示されます。ログには、タスクの日付/時刻、タスクの成功または失敗、タスク名、および該当す る場合は詳細なログデータが含まれます。タスク名のリンクをクリックして、実行したタスクに関 する詳細を表示します。このページにマシンを表示するには、[インストール/削除]『44 ページ』を 使用してマシンに Desktop Policy および Desktop Migration のクライアントがインストールされて いる必要があります。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェッ クインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- ① エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- ④ エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- ◎ エージェントが延期された

Desktop Policy および Desktop Migration の レポート

このセクションで

Desktop Management - 省電力 Desktop Management - ユーザーの状態 49 50

Desktop Management - 省電力

[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [Desktop Management] > [省電力] • Desktop Policyアドオンモジュールがインストールされている場合にのみ表示されます。

パワーセーブページは、特定の電源ポリシーを使用して、どの程度の金額を節約できそうかの推定 、または節約された金額、を示すレポートを生成します。独立した電源監査が標準監査の一部とし てスケジュールされ、Desktop Policy クライアントがインストールされていないマシンを含めて、 すべての管理マシンから電源設定を収集します。

比較設定

電源ポリシーがマシンに適用されるたびに電源監査が実行され、通常は毎日、最新の監査も実行されます。

- マシンのベースライン監査の情報を以下と比較します:
 - 比較対象 定義されている電源ポリシーを選択して、選択した電源ポリシーに切り替えると、どの程度節約できるかを見ます。
 - すべてのマシンを含める チェックした場合、Desktop Policy がインストールされてい るマシンからの結果と共に、Desktop Policy がインストールされていないすべての Windows 2003 マシンおよび Windows XP マシンに関する独立した電源監査結果を含めま す。デフォルトではチェックされています。Windows 2000、Vista、または7のマシンは 含めません。
- 最も最近の電源監査データを以下と比較します:
 - 比較対象 ベースライン電源ポリシー ベースライン電源ポリシーと各マシンの最新の 監査を比較して、省電力量を示します。ベースライン電源ポリシーは、マシンに Desktop Policy がインストールされる前に実施されていた電源ポリシーです。
 - 比較対象 最後に配置した電源ポリシー 最後に配置した電源ポリシーと各マシンの最新の監査を比較して、省電力量を示します。この値は、一部のユーザーが前回電源ポリシーが適用されてから設定を変更していない限り、最も最近の電源監査のデータと同じはずです。
- レポート期間 レポートのレポート期間を入力します: 年、月、ベースライン収集時間から。

レポート値を設定する。

推定電源節約のベースとなる値を設定するか、それらのデフォルト値のままにします。

• 平均 PC ワット - システムの PC が平均で使用するワット数を入力します。

- **平均モニターワット** システムのモニターが平均で使用するワット数を入力します。
- キロワット-時間(kWh)のコスト キロワット-時間(kWh)当たりのコストを入力します。
- 通貨記号 キロワット-時間(kWh)のコストフィールドに入力したコストに関連する通貨記号を 入力します。この通貨記号は、レポートに表示されます。

詳細設定

以下の詳細設定に変更を行うか、それらのデフォルト値のままにします。

- スタンバイ時の PC ワット PC がスタンバイモードにあるときに、平均で使用するワット数を 入力します。
- ワークステーションの一日当たり時間数 ワークステーションを使用する、一日当たり時間数 を入力します。
- ワークステーションの一週当たり時間数 ワークステーションを使用する、一週当たり時間数 を入力します。
- 一日の終わりに電源をオフにするマシンの % 一日の終わりに実際に電源をオフにするマシンの数を入力します。
- ワークステーションの年間アイドル日数(休日、祭日、など) 週末に加えて、ワークステーションが使用されない年間の平均日数を入力します。
- 次に基づいてマシンデータを選択する:
 - 最大節約 選択すると、計算ではマシンの単一ユーザーを使用します。このユーザーは、他のユーザーはそのマシンを使用していないかのように、最高の推定電源節約を示します。これは、そのマシンでの最高の可能な電源節約を表しています。
 - ア均ユーザー 選択すると、計算ではそのマシンのすべてのユーザーがそのマシンに等しい時間づつログインしたかのような仮定で推定される電源節約の平均を使用します。これは、最大節約オプションと同等かより小さい電源節約推定値になります。
- ハードドライブワット ハードドライブが使用するワット数を入力します。
- サーバーの一日当たり時間数 サーバーを使用する、一日当たり時間数を入力します。

注: 名前にserverという語を含むOSは、このレポートではサーバーとして扱われます。

- サーバーの一週当たり時間数 サーバーを使用する、一週当たり時間数を入力します。
- サーバーのモニターを含める チェックすると、計算では、各サーバーにはモニターが取り付けられており、モニターに対する電源設定も含まれると想定します。
- ユーザー毎の設定を示す チェックすると、レポートは各マシンでの各ユーザーの節約を示します。

Desktop Management - ユーザーの状態

[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [Desktop Management] > [ユーザーの状態]

- Desktop Policyアドオンモジュールがインストールされている場合にのみ表示されます。
- [Desktop Management] > [ステータス] 『10ページ』で類似の情報が表示されます。

[**デスクトップポリシー**]ページでは、VSA が管理する次のタイプの **Desktop Policy** データのレポートを生成します。

Desktop Policy レポートに含めるサブトピックを選択します。

- ユーザータイプを含める マシンの各ユーザーがメンバーになっているすべてのユーザーグル ープをリストアップします。
- マップドライブを含める 各ユーザーのドライブのマッピングをリストアップします。

- プリンターを含める 各ユーザーのプリンターのマッピングをリストアップします。
- 共有ポイントを含める マシンのすべてのディレクトリ共有をリストアップします。
- データがないマシンを含める Desktop Policy 情報が収集されていないマシンを含めて、すべてのマシンのレポートのエントリーを表示します。

設定パッケージを作成

このセクションで

自分の設定パッケージを記載	52
パッケージ	54
説明	55
検索	56
名称を見つける	57
場所を見つける	57
プロセス	58
コンポーネント	58
設定	59
設定場所	61
設定デフォルト	62
SettingsList	62

自分の設定パッケージを記載

Kaseya の Desktop Policy および Desktop Migration のソリューションは次の2つの部分から構成 されています。ユーザーの状態をキャプチャするエンジン、およびどの状態を移動させるかを定義 する設定パッケージの大きなセットです。電源管理設定の設定パッケージ、他にはWordの設定、さ らにマウスの設定、などです。これらの設定パッケージのそれぞれは、エンジンに何をキャプチャ するかを指示し、エンジンにどう処理するかの詳細を指示します。

設定パッケージは、宣言型言語を使用して、どの設定を持つかを指定します。この言語は XML の「 方言」であり、好きなテキストエディタが使用できて、編集が簡単です。

基本的な設定パッケージは、次のとおりです:

```
<Package Category="Examples" Name="Pinball"
Type="Application" Platforms="Windows" Version="1">
   <Description>
       Migrates the music setting in the Pinball game.
   </Description>
    <Find>
        <Name>pinball.exe</Name>
        <Location Type="file" File="%programfiles%\Windows NT\Pinball\PINBALL.EXE" />
   </Find>
    <Component>
        <Setting Name="Music" Type="boolean">
             <Location Type="registry" DataType="dword">
                 HKCU\Software\Microsoft\Plus!\Pinball\Music
            </Location>
        </setting>
    </Component>
</Package>
```

設定の検索

なんでも移行できるために、設定がどこに保存されるかを知る必要があります。ここに、これを達 成するための若干のツールと、その使い方があります。

- Regedit これは OS と共に出荷されている偉大なツールであり、何もインストールする必要はありません。これによって、レジストリーを検索し、アプリケーションがここにある値をどのように変更するかを正確に見ることができます。対象となるレジストリーキーをエクスポートして、適切な変更を行ってから、エクスポートした値と現在の値を比較します。多くのアプリケーションは、シャットダウンする時にだけレジストリーに変更を書き込むことに注意してください。
- RegMon レジストリーの単一の設定をモニターしたい場合は、MicrosoftのRegMonを使ってください。これによって、レジストリーのイベントを発生したとおりに見ることができますが、 非常に余分な情報も多いです。フィルターを使って―トップに小さなじょうごを置いて―情報の量を減らしてください。
- FileMon RegMon がレジストリーに行うことと同じことを、FileMon はファイルに対して行います。ノイズが多いという同じ問題がありますので、非常に似ているフィルタリングの技法を使用する必要があります:作業をしているアプリケーションからのアクセスだけを表示できます。

変数

OS のユーザーの状態をインストールして、構成する無数の方法があるので、一般的なディレクトリ 用の変数を使用する必要があります。これによって、変化する環境でも設定パッケージをより堅固 にできます。Microsoft が何かが保存されている場所を変更した場合—たとえば、Vista では、多くの 変更がありました—変数が適切なディレクトリを正しく探してくれます。

すべての変数は、Windows-スタイルでパーセント記号で囲まれています: %MyVariable%。大文字、小文字は区別されません。

変数名	説明
ユーザー情報	
%appdata%, %applicationdata%	ユーザ専用 AppData ディレクトリ。
%cookies%	ユーザーの Internet Explorer の Cookies 用ディレクトリ。
%desktop%	ユーザ専用デスクトップディレクトリ。
%favorites%	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存されます。
%history%	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴用ディレクトリ。
%internetcache%	Internet Explorer のキャッシュ用ディレクトリ。
%localapplicationdata%	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設定はローミングプ ロファイルでは移動しません。
%mymusic%	ユーザーの[<mark>マイ ミュージック</mark>]のディレクトリ。
%mypictures%	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ。
%personal%	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ。
<pre>%profile%, %userprofile%</pre>	ユーザーの[<mark>プロファイル</mark>]または[ホーム]のディレクトリ。
%programs%	ユーザーのスタートメニューのプログラム用ディレクトリ。
%quicklaunch%	ユーザーのクイック起動のプログラム用ディレクトリ。
%recent%	ユーザーの「最近使用した項目」ディレクトリ
%sendto%	ユーザーの「送る」プログラム用ディレクトリ。
%startmenu%	ユーザー固有のスタートメニューの項目用ディレクトリ。
%startup%	ユーザー固有のスタートアップ項目用ディレクトリ。

53

設定パッケージを作成

%tempdirectory%	ユーザ専用一時的ディレクトリ。
%templates%	ユーザーのテンプレートのディレクトリ。
%username%	ユーザーのログイン名(フルネームではない)。

共通ファイル

%commonapplicationdata%	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ。
%commondesktop%	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ。
%commondocuments%	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ。
%commonprogramfiles%	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ。
%commonstartmenu%	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクトリ。
%fonts%	システムがフォントを保存する場所
%profiles%	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所。
%programfiles%	システムがプログラムを保存する場所。
80S8	OS をインストールする場所。
%system%	システムファイルがインストールされる場所。
%windir%	Windows がインストールされる場所。

コンピュータ情報

%computername% このコンピュータの名前。ドメインで承認されている必要がありま	とす 。
---	------

どこにファイルを配置するか

パッケージが準備できたら、Kaseya Serverの %KSERVER_ROOT%\WebPages\ManagedFiles\VSAHiddenFiles\KUSM\ClientApp\Setting sPackages に置きます。そのフォルダを作成できる必要があります。

権限

設定パッケージは、ユーザーアクセス権を持つユーザーが読み取りアクセスできる必要があります。 。一般的には、全員にグループの読み取りアクセス権を付与するのが最も簡単です。

パッケージ

<<u>Package/></u>要素が、パッケージのルートレベルです。定義しているパッケージを特定し、パッケ ージ選択ユーザーインターフェースのどこに表示するかを特定します。

属性	説明	可能な値	必須ですか?
Category	設定パッケージ識別子の 一部です。カテゴリーを 使用して、どのパッケー ジがカスタムパッケージ であるかを示します。	任意のテキスト。これは会社または組織を 特定するはずなので、Kaseya が提供する将 来の設定パッケージはユーザーのカスタム 設定パッケージとは矛盾しません。たとえ ば、Category="MIT"または Category="MIT-Physics"を使用します 。	はい
DisplayCatego ry	このパッケージが、パッ ケージ選択ユーザーイン	任意のテキスト。 <mark>Category</mark> とは異なり、 会社や組織を指定する必要はありません。	はい

	ターフェースで表示され るカテゴリーです。	ただし、必要に応じて指定できます。	
Name	このパッケージが、パッ ケージ選択ユーザーイン ターフェースで表示され る名前です。	任意のテキスト。	はい
Туре	このパッケージが、パッ ケージ選択ユーザーイン ターフェースのどの部分 で表示されるか。	Application または System	はい
Platforms	このパッケージが適用さ れるプラットフォームの パイプ区切りのリスト。	Windows	はい
Version	これが、パッケージのど のバージョンであるかを 特定します。	任意の数字。	はい

子供	最小	最大
<description></description> 『55 ページ』	1	1
<find></find> 『56 ページ 』	1	任意
<process></process> 『58 ページ 』	0	任意
<component></component> 『58 ペー ジ 』	1	1

説明

この<<u>Description</u>/>要素はパッケージ選択ユーザーインターフェースで使用され、このパッケージの詳細な説明を提供します。現在は使用していませんが、将来は使用する予定です。

属性	説明	可能な値	必須ですか?
なし			

子供	最小	最大
パッケージ選択インターフェースに表示されるテキスト。パッケージが 何を移動し、何を警告するかを説明する必要があります。	なし	なし

検索

<Find>要素は、このパッケージが適用可能かどうかを判断する方法を説明します。<Find/>ブロ ックのいずれかが実行可能ファイルを検出できる場合、このパッケージが使用されます。

満足

<Find/>ブロックは、適切な実行可能ファイルを検出した場合に"満たされた"ことになります。 <Find/>ブロックは常に、その子の<Name/>要素で指定された名前をもつファイルをディスク上で 探します。<Find/>要素は、<Location/>タグを使用して、実行可能ファイルが存在する場所を 調べます。それぞれは、文字列の値を探し、次に適切な名前のフィールドをポイントしているか確 認します。<Location/>が実際のファイルのパスを検出したが、ファイル名が<Name/>要素と一 致しない場合は、<Find/>ブロックは満たされません。ブロックが満たされるのは、 <Location/>がパスを検出し、そのパスが<Name/>要素と一致する、適切な名前をもつファイル をポイントしている場合のみです。

複数の EXE 名

移行するアプリケーションが複数の異なる名前(たとえば、1つは32ビットシステム用で、もう1つは64ビットシステム用)をもつ可能性がある場合、名前ごとに1つずつ、複数の<Find/>ブロックを指定する必要があります。

```
<Find>

<Name>Crunch64.exe</Name>

<Location Type="file" File="%programfiles%\Crunch\Crunch64.exe" />

<Location Type="registry" SubType="value">

HKCU\Software\Crunch\NativeLocation

</Location>

</Find>

<Sind>

<Location Type="file" File="%programfiles%\Crunch\Crunch32.exe" />

<Location Type="registry" SubType="value">

HKCU\Software\Crunch\NativeLocation

</Location>

</Find>

</Find>
```

評価の順番

<Find/>ブロックは、ドキュメントの順番に評価されます。最初のものがまず評価され、二番目は 二番目に、など以下同様です。どれかのブロックが「満足」すると、評価は終わり、以後のブロック は無視されます。このように、どの実行可能形式が見つかるかが重要であるならば、リストの最上 位により望ましいものを配置しなければなりません。

見つける必要がない場合

時には、必ず存在するとわかっている何かに対するパッケージを書くことがあります。たとえば、 システムのコンポーネントまたは組み込みのアプリケーションなどです。このような場合、 <Find/>ブロックを完全に取り除くことができます。エンジンはこれを自動的に「満足」と取扱い、 設定パッケージを移行します。

属性	説明	可能な値	必須ですか?
なし			

子供	最小	最大
<name></name> 『57 ページ 』	1	1
<location></location> 『57 ページ 』	1	任意

名称を見つける

<Find><Name/></Find>要素は、<Location/>タグ内で何を検索するかを定義します。値が見つ かるすべての場所で、エンジンはその値をパスに変換して、パスにこの名前があるファイルを探し ます。満足 『56 ページ 』を参照。

属性	説明	可能な値	必須ですか?
なし			

子供	最小	最大
探すファイルを指定するテキスト。 満足 『56 ページ 』を参照。	なし	なし

場所を見つける

<Find><Location/></Find>要素は、親の<Find/>ブロックを満たす場所*(存在する場合)*をポイントします。使用する場所のTypeにかかわらず、エンジンはその値をパスとして使用し、

ファイルを見つける

C

ファイルの場所は、最も簡単に実行可能形式を見つける方法ですが、最も不安定な方法でもありま す。大半のインストーラではファイルを配置する場所を選べるので、これは一般的には最善の解決 策ではありません。ここではすべての変数『52ページ』が使用可能であることに注意してください

<Location Type="file"
 File="%programfiles%\Adobe\Illustrator 10\Illustrator.exe" />

レジストリーでの検索

2番目に簡単な実行可能形式を見つける方法は、大半のインストーラが参照を保存するレジストリー へのパスを見つけることです。これは、インストーラが任意の場所にファイルを配置できる場合に 対処できます。

```
<Location Type="registry" SubType="value">
HKLM\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\App Paths\Acrobat.exe
</Location>
```

属性	説明	可能な値	必須ですか?
Туре	これがどんなタイプの場所かまた、エンジンがどのよう にしてそれを見に行こうとしているかを特定します。	file, registry	はい
SubType	その場所のどの部分を使用するか特定します。	値	いいえ
File	Type="file"の場合、親の <find></find> ブロックを満たす ために使用されるファイル <i>(存在する場合)</i> を指定しま す。	ファイルへのパ ス	いいえ

子供	最小	最大
テキスト: <mark>Type="registry"</mark> の場合、テキストは調べるキーのレジスト リパスです。	なし	なし

プロセス

<Process/>要素は、移行中のエンジンにプロセスの停止を指示します。そのプロセスが、移行す る必要があるファイルをロックしている場合に必要です。

属性	説明	可能な値	必須ですか?
Stop	<mark>true</mark> の場合、移行の前に、このプ ロセスが開いていれば停止します。	true または false。存在しない場 合は、false と見なされます。	いいえ

子供	最小	最大
テキスト : 関与するプロセスの名前。例: <mark>iexplore.exe</mark>	なし	なし

コンポーネント

<Component/>要素は、このパッケージにより移行されるすべての<Setting/>タグをグループ化 します。ほとんどすべてのパッケージに、その<Setting/>タグをすべて格納する単一の <Component/>があります。

属性	説明	可能な値	必須ですか?
なし			

子供		最小	最大
<setting></setting>	『59 ページ 』	0	任意

<settingslist></settingslist> [62	2 ~~ 0	任意
ジ 』		

設定

<Setting/>要素は、このパッケージが移行する設定を記述します。

マッピング

すべての文字列が、ソースから移行先へマップされます。プログラムファイルのディレクトリがマ シンによって変化する場合、エンジンが通知し、そこをポイントするパスを訂正します。同様に、 ユーザーのドキュメントフォルダが移動した場合、適用する前にパスが更新されます。

レジストリーパスの別名

多くの設定はレジストリーに保存され、レジストリーパスによって参照されます。以下の別名がエ ンジンによって認識され、設定パッケージを読みやすくします。別名を使用するすべての例。

別名	参照先
HKCU	HKEY_CURRENT_USER
HKLM	HKEY_LOCAL_MACHINE
HKCR	HKEY_CLASSES_ROOT
HKU	HKEY_USERS
HKCC	HKEY_CURRENT_CONFIG
HKDD	HKEY_DYN_DATA
HKPD	HKEY_PERFORMANCE_DATA

設定内での設定

設定をグループ化する際に便利であり、設定パッケージが読みやすくなります:

```
<Setting Name="Security">

<Setting Name="EnablePGP">

<Location Type="registry" SubType="value">

HCKU\Software\Crunch\EnablePGP

</Location>

</Setting>

<Setting Name="RequirePassword">

<Location Type="registry" SubType="value">

HCKU\Software\Crunch\PasswordRequired

</Location>

</Setting>

</Setting>
```

これは設定パッケージ内での単なる論理的グループであることに注意してください。それらの設定 がどのように保存されているかに対応する必要はありません。任意の数の設定を任意の深さでグル ープ化できます。

こうした設定の名前も、少し異なっています。ネストされている設定には、認証された名前があり、それはその親の認証された名前、順方向のスラッシュ、そしてそれ自体の名前で構成されます。 したがって、これらの設定の修飾名は Security/EnablePGP および Security/RequirePassword になります。

registry/subkeyの指定によるキーツリーの移行

たいていの場合は、レジストリーキーの全体、そのすべての値、そのすべてのサブキー、およびそのすべての値を移動したいと思うでしょう。これは Type="registry" SubType="subkey"を指定することで実現できます。

```
<Setting Name="CrunchSettings">

<Location Type="registry" SubType="subkey">

HKCU\Software\Crunch

</Location>

</Setting>
```

すべての文字列は自動的にマップされ、すべてのデータタイプは自動的に決定されます。一定の場合に、レジストリーに移行したいファイルへのパスが含まれていれば、そうしたパスはファイルパスを使用して個別に取り扱えるはずです。registry/subkeyを使用する方法をまず試してください。他のレジストリのSubType は必要な場合にのみ使用してください。

registry/valueの指定によるレジストリ値の移行

レジストリーの値はそのパスを与えて移行できます:

<Setting Name="ReticulateSplines"> <Location Type="registry" SubType="value"> HKCU\Software\Crunch\ReticulateSplines </Location> </Setting>

<mark>registry/valueexistence</mark>の指定による、レジストリ値の有無によらない移行

時にはアプリケーションにはレジストリーの値に関する情報が保存されていないことがあrますが、その存在をチェックします。これは以下のように移行できます:

```
<Setting Name="IsRegistered">
     <Location Type="registry" SubType="valueexistence">
         HKCU\Software\Crunch\Registered
     </Location>
</Setting>
```

fileの指定によるファイルの移行

固定位置でのファイルの移行は簡単です:

```
<Setting Name="DataFile">
<Location Type="file" File="C:\Path\To\File.dat" />
</Setting>
```

可能な限り、変数 『52ページ』を使用します:

```
<Setting Name="DataFile">
<Location Type="file" File="%ProgramFiles%\Crunch\File.dat" />
</Setting>
```

<mark>filepath</mark>の指定によるレジストリ内にパスがあるファイルの移行

設定が実際にファイルへのパスである場合、しばしばパスだけなく、ファイルも同様に保存したい 場合があります。この場合、Type="filepath"属性を<Setting/>に追加すると、エンジンがフ ァイルを移動します。レジストリーの値がマップおよび移行され、ファイルが移行されて、適切に マップされた場所へ適用されます。

```
<Setting Name="DataFile" Type="filepath">

<Location Type="registry" SubType="value">

HKCU\Software\Crunch\DataFilePath

</Location>

</Setting>
```

属性	説明	可能な値	必須ですか?
Name	設定の名前です。ネストした設定の 場合、認証された名前は、親の認 証された名前、順方向のスラッシュ 、そしてその属性の値になります。	a-z、A-Z、0-9、ドット、ダッシュ 、および下線の文字だけで構成され るテキストです。スペース文字は使 えません。	はい
Туре	この設定は、単なる文字列とは取扱 いが違うでしょうか?値に追加の意 味がある場合、Typeでその意味を 指定できます。	filepath、またはなし	いいえ
OSVersion	指定した OS にこれを移行するだけ です。複数 OS の場合は、パイプ記 号で区切ります。例: Windows95 Windows2000。Any で始まる値は同様に機能します。	Windows2000、WindowsXP、また はWindowsVista。AnyWindows はこれらすべてに一致します。	いいえ

子供	最小	最大
<location></location> 『61 ページ 』	0	任意
<default></default> 『62 ページ 』	0	1
<setting></setting>	0	任意
<settingslist></settingslist> 『62 ペー ジ 』	0	任意

設定場所

<Location/>要素は、設定を保存するディスク上の場所、および保存方法を記述します。

属性	説明	可能な値	必須ですか?
Туре	これがどんなタイプの場所かまた 、エンジンがどのようにしてそれ を見に行こうとしているかを特定 します。	file, registry	はい
SubType	その場所のどの部分を使用するか 特定します。	上記参照	いいえ
File	Typ <mark>e="file"</mark> の場合、移行する ファイルを指定します。	ファイルへのパス	いいえ
FileOverwrite	ファイルと同じ名前がすでに存在 するファイルを適用する場合、上 書きしますか?	適用時に、alwaysは毎回、既存 のファイルを保存済みのファイル で上書きします。ifnewerは、保 存済みのファイルが移行先のマシ ンにあるコピーより新しい場合に のみ上書きします。neverは、決 して既存のファイルを上書きしま せんが、移行先マシンにファイル が存在しない場合は、保存済みの	いいえ

ファイルを配	置します。	
子供	最小	最大
テキスト:Typeによって、テキストの値がパスとして使用されます。	なし	なし

設定デフォルト

指定した<Location/>に何も見つからない場合、エンジンは代わりに<Default/>タグに含まれる 値を使用します。ソースマシンのアプリケーションは、外部で定義されたデフォルトの代わりに内 部的なデフォルトを使用する場合があります。内部のデフォルト値にはアクセスできず、移行され ないので、ターゲットマシンの外部的デフォルト値が上書きされないため、これは設定をターゲッ トマシンに移動する際に問題を発生させることがあります。<Default/>タグを使用して内部デフ ォルトを複製することにより、ターゲットマシンにコピーする外部値をソースマシンが提供しなか った場合ても、必ずターゲットマシン上の外部定義された設定が特定の値で上書きされます。

```
<Setting Name="TimeoutInMilliseconds">
<Location Type="registry" SubType="value">
HKCU\Software\Crunch\Timeout
</Location>
<Default>100</Default>
</Setting>
```

テキスト:使用する値。親の<Setting/>で宣言されたタイプに変換さ

属性	説明	可能な値	必須です	トか?
なし				
子供			最小	最大

なし

なし

SettingsList

れます。

<SettingsList/>は、<Location/>のさまざまなサブ部分を列挙して、それらをすべて移行します。これによって、任意の長さのリストを移行したり、パッケージを書くときに名前が不明であるものをグループ化できます。多くの場合、レジストリ/サブキーの場所を使用するほうがよりよく処理できます。ただし、移行に関する値(保存するファイルをポイントする値など)を使用する必要がある場合は、<SettingsList/>が必要です。

<SettingsList/>内では、2つの特別な変数が使用できます。最初の変数は名前を <SettingsList/>タグと共有します。次の例では%UserDefinedFunctions%です。この場合、 指定したキーのそれぞれの値の*名前*を参照します。2番目の変数(次の例では使用されていない)は 最初の変数と同じ名前ですが、接尾辞_valueが付きます(例: %UserDefinedFunctions_value%.)。接尾辞_value をもつ変数は、その名前で*保存*されてい るあらゆるものを参照します。ここでは、それは各キーに関連するデータです。

例

レジストリに保存されているファイルの任意のリストをファイルパスとして保存するには、 <SettingsList/>を使用する必要があります。

```
<SettingsList Name="UserDefinedFunctions" Type="value">

<Location Type="registry" SubType="subkey">

HKCU\Software\Crunch\User Defined Functions

</Location>

<Setting Name="UDF" Type="filepath">

<Location Type="registry" SubType="value">

HKCU\Software\Crunch\User Defined Functions\%UserDefinedFunctions%

</Location>

</Setting>

</SettingsList>
```

属性	説明	可能な値	必須ですか?
Туре	何を列挙しますか?	キーまたは値	はい

子供	最小	最大
<location></location> 『61 ぺー ジ 』	1	任意
<setting></setting> 『59 ページ 』	0	任意

インデックス

Γ

[Wake on LAN] > [スケジュール]・6 [Wake on LAN] > [警報]・8

D

Desktop Management - ユーザーの状態・50 Desktop Management - 省電力・49 Desktop Migration の構成・5 Desktop Policy および Desktop Migration のモジュール 要件・3 Desktop Policy および Desktop Migration のレポート・ 49 Desktop Policy および Desktop Migration の概要・2 Desktop Policy の構成・3

S

SettingsList • 62

U

USB ドライブ・26

W

Windows Defender • 27

あ

アクション・センター・27 インストール/削除・44

か

クライアントとログファイルを構成・3 コンポーネント・58

さ

ステータス・10

た

データ設定・40 デスクトップ・21 デスクトップの構成・23 デスクトップ設定フィルター・24

は

バックアップ・30 パッケージ・54 プリンター・19 プリンターポリシー・20 プロセス・58 ポリシー警報・27

ま

マップドライブ・16 マップドライブポリシー・18

や

ユーザー設定フィルター・32

Б

ログ・47

漢字

移行 • 37 移行可能 · 30 移行警報 • 41 管理 • 40 検索・56 現在の状態・11 光学ドライブ・26 最大ログエージ・46 自分の設定パッケージを記載・52 場所を見つける・57 設定 · 59 設定デフォルト・62 設定パッケージを作成・52 設定場所 · 61 説明 • 55 電源・12 電源ポリシー・15 復元する・34 保存された設定 - 移行・39 保存された設定 - 復元・35 名称を見つける・57